

第4章

広域的な共助・支援による 雪処理の担い手確保と活用

第4章 広域的な共助・支援による雪処理の担い手確保と活用

4 - 1 本章の基本的考え方

地域における雪処理は、その地域内で対処するのが基本である。しかし、平成 18 年豪雪で明らかになったように、地域一体が豪雪に見舞われた場合、住民、行政、除雪業者、ボランティア等のいずれの担い手も手一杯となり、地域内での対応が現実的に困難な状況となる。

災害救助法に基づく自衛隊派遣や財政的支援、自治体間の協定等に基づく行政職員の派遣など、自治体の枠を超えた公的な支援策を講じる一方で、今後の豪雪時に備えて、地域内のみでなく地域外を含めた広域的な共助体制を構築し、地域外ボランティアを含めた多様な雪処理の担い手確保と活用に努めることが今日的な課題となっている。

本章では、最初に、都市部の若者・学生を周辺の豪雪地の担い手として活用する取組として、北海道部会における「ホームステイ型除雪支援実験」及び「ホームビジット型除雪支援実験」の結果を報告する（節 4 - 2）。

次に、雪処理の担い手として、冬期間の農業従事者の潜在力に着目し、周辺地域の農業従事者と連携した雪処理支援の可能性を検討した秋田部会の調査結果を報告する（節 4 - 3）。

広域的な共助・支援においては、豪雪になってからあわてて取り組むのではなく、平時からの関係づくりが不可欠であり、そのためには一方的に支援を受けるのではなく、双方向性のある交流的な要素も重要となる。新潟県湯沢町では、平成 18 年豪雪時に地域外から多数の除雪ボランティアを受け入れており、これを契機として地域外ボランティアとの継続的な関係づくりを展開している。そこで、新潟部会で実施した「湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会」について報告する（節 4 - 4）。

また、地域外の雪にあまり慣れていない人から協力を得る場合、雪処理作業に必要なスキルや事故を防ぐための知識を教えるとともに、雪に慣れてもらうことが重要である。さらに、その人のスキルに応じた役割・作業を配分したり、活動する地域・場所を調整するなど、コーディネートの機能が極めて重要となる。これらの新しい課題に対して、新潟部会では、「越後雪かき道場」というプログラムを開発し、実践を通して仕組みを構築してきており、その成果を報告する（節 4 - 5）。

最後に、地域外からの協力を得るにあたり、受入側としては、その人たちが事故や怪我、病気、体調不良等にならないよう、最大限の注意を払わなければならない。すなわち、今後の重要課題の一つとして、除雪ボランティアの安全衛生の確保があり、想定しうる様々なリスクを明らかにし、環境整備のあり方について包括的に検討する必要がある。そこで、先の「越後雪かき道場」と並行して実施した「除雪ボランティアの安全衛生に関する調査」の成果を報告する（節 4 - 6）。

4 - 2 都市部の若者・学生等を活かした雪処理支援の仕組みづくり

1 ホームステイ型除雪支援実験

【北海道部会】

(1) 実施目的

他地域から雪処理の担い手を確保し、平時より他地域との交流を基にした雪処理の相互扶助のあり方を検討することを目的に、観光や留学などで北海道を訪れた人が高齢者世帯でホームステイし、交流を深めながら除雪支援を行う実験を実施した。

実験で確かめたいこと

- 観光などで北海道を訪れた人（学生・外国人）がホームステイを行い、ホストファミリーと交流を深めるとともに、除雪支援を行うことが可能かどうかを検証。
- 特に、戸建てに住む高齢者世帯の空き部屋に学生又は留学生在がホームステイし、宿泊費を払う代わりにホームステイ先で除雪をすることが、除雪の担い手確保の手段として有効かどうかを検証。

(2) 実験概要

実施期間

平成19年2月16日（金）～2月19日（月）（3泊4日）

ホームステイ対象者（以下、ゲスト）

首都大学東京大学院に在学中の留学生4名（韓国出身：女性2名、中国出身：男性2名）

受入家庭（以下、ホストファミリー）

札幌国際プラザのホームステイ制度に登録している家庭4世帯

費用

- ・ゲストに対し、札幌までの交通費の一部（一人当たり¥33,000、源泉徴収分含む）と国内旅行保険（一人当たり¥540）を支給
- ・ホストファミリーに対し、ゲスト送迎経費の一部（一家庭当たり¥1,000）を支給

全体スケジュール

図表4-1のとおり

実験フロー

図表4-2のとおり

図表 4 - 1 ホームステイ型除雪支援実験 全体スケジュール

月日	内 容	備 考
2/16 (金) 午前	ゲストが札幌市内に到着	
13:30	ゲスト対象のオリエンテーション (於：札幌国際プラザ 3F会議室) ・ 実験内容の確認 (dec) ・ ホームステイ注意事項の説明 (国際プラザ)	* 時間が余った場合は自由 時間とし、対面式前に再度 集合する場合もある
14:15 頃	・ 除雪講習会 (須田先生)	
15:30 頃	・ 除雪実習 移動	
16:00 頃	実習終了 札幌国際プラザに戻る 対面式 (於：札幌国際プラザ 3F会議室) ・ ホストファミリーとゲストの紹介(国際プラザ) ・ 滞在時の注意/連絡事項の説明、確認 (") ・ アンケートの配布 (dec) ゲスト、各ホームステイ先へ	* ホストファミリーによっ ては 17 時半～18 時頃にな る場合もある
2/17 (土) 8:30	ゲストが札幌駅に集合 除雪体験日帰りツアー「雪はね体験隊！」に参加 (於：上富良野町)	1 - 4 - 2 参照
21:30 頃	ゲストが札幌駅に到着、解散 ゲスト、各ホームステイ先へ	
2/18 (日) 終日	ホストファミリーとの交流	
2/19 (月) 午前	ホストファミリーとの交流	
13:30	解散式 (於：札幌国際プラザ) ・ アンケート回収 (dec) ゲスト、新千歳空港へ	* ホストファミリーによっ てはゲスト単独で参加

< 注意事項 >

- 一緒に話す時間をお互いに持つなど、ホストファミリーと相談の上、交流の時間を設ける。
- ホームステイ先での除雪は、ホストファミリーがお願いした時のみ実施し、ホストファミリーの指示にしたがって除雪する。(天候状況などから、除雪を全く必要としない場合もある。)
- ホストファミリー宅で除雪のお手伝いをした場合は、その時の写真撮影と簡単な記録(アンケート票の除雪ダイアリー)をする。
- ホストファミリー宅での除雪は、家の出入口や周辺の除雪や運搬排雪が中心となり、重大事故のリスクが高い屋根の雪下ろしは行わない。

図表 4 - 2 ホームステイ型除雪支援実験 実験フロー

	ホスト	ゲスト	事務局
準備 1月中 ～ 1月末	<p>ホストの応募</p> <p>ゲスト名の連絡</p>	<p>ゲスト応募</p> <p>ホストの連絡</p>	<p>国際プラザ:ホストの募集 dec:ゲストの募集</p> <p>国際プラザ:ホストとゲスト のマッチング、調整 ・ゲスト、ホストの決定</p>
実験 2月16日 ～ 2月19日	<p>ホームステイ開始(3泊4日) ・降雪時の除雪支援、記録 ・食事等による交流など * 2/17は日帰り除雪ツアー参加</p>	<p>・オリエンテーション ・除雪実習</p> <p>・対面式 ・紹介、注意事項確認、アンケート配布</p> <p>・解散式 ・アンケート回収</p>	<p>緊急時連絡</p>
フォロー アップ 2月20日 ～ 2月25日	<p>追加アンケート (もしあれば)</p>	<p>追加アンケート (もしあれば)</p>	<p>・アンケート集計 ・結果とりまとめ</p>

(3) オリエンテーションの実施

実験の開始にあたり、オリエンテーションとして、札幌国際プラザ会議室にてプログラムの概要や注意事項の説明を行うとともに、須田委員の指導の下、実際の高齢者宅で除雪実習を行い、雪かき時の良い姿勢と悪い姿勢の例などを実演した。

日時

平成 19 年 2 月 16 日(金) 13:30~15:30

場所

札幌国際プラザ(オリエンテーション)

札幌市中央区の民家(除雪実習)

出席者(ゲスト・ホストファミリー以外)

北方圏体育スポーツ研究会 北海道大学名誉教授(除雪指導)	須田 力
財団法人札幌国際プラザ 次長	根子 俊彦
財団法人札幌国際プラザ	宮澤 麻衣子
社団法人北海道開発技術センター	大川戸 貴宏
社団法人北海道開発技術センター	新谷 陽子

配布物

<ゲスト>

- ・道外及び外国人来訪者ホームステイ型除雪支援実験 実施要項
- ・除雪ガイドブック「人力除雪学序説」

須田委員他による除雪ガイドブック。除雪経験のない人だけでなく、除雪経験のある人にとっても、除雪作業の見直しや再考に役立つ参考書として配布した(ホームビジット型除雪支援ツアー参加者にも配布)。

- ・雪はね体験隊 隊員のしおり
- ・アンケート調査票(ゲスト用)
- ・交通費
- ・長靴(事務局より貸出) 防寒具は新千歳空港のレンタル会社で貸し出し(費用は事務局負担)
- ・使い捨てカメラ(除雪記録用)

<ホストファミリー>

- ・アンケート依頼文・調査票(ホストファミリー用)

<オリエンテーション(説明)>

写真4-1 オリエンテーション風景1



写真4-2 オリエンテーション風景2



<除雪実習>

写真4-3 除雪の指導1



写真4-4 除雪の指導2



写真4-5 雪かきの良い姿勢の指導



写真4-6 雪かきの悪い姿勢の指導



(4) ホームステイ中の除雪作業

4名のゲストは、ホームステイ期間中、それぞれのホストの家屋周りの雪かきを実施しており、その様子は以下のとおりである。

図表4-3 ホームステイ中の除雪作業の様子

<p>Aさん</p> <p>左：作業前 右：作業後</p>		
<p>Bさん</p> <p>ホストが車庫の屋根雪を下ろし、ゲストが運搬 左：作業前 右：作業中</p>		
<p>Cさん</p> <p>融雪槽に雪を投げ入れる</p>		
<p>Dさん</p> <p>車庫と家の周辺を除雪</p>		

(5) ホームステイ型除雪支援実験の評価 - アンケート結果 -

1) ゲストのアンケート結果

- ホームステイ先の除雪は全員が体験し、事故なく安全に作業ができた。
- ホームステイ全体のプログラムを通して、3名が「良かった」「また参加したい」と回答したが、1名が「どちらとも言えない」「参加したくない」の回答であった。
- 次回の参加意向がない1名は、他3名と違って、ホームステイ先の除雪を単独で行っていた。このように、除雪作業を単独で行う場合と、ホストファミリーと一緒にいる場合では、ホストとゲストの交流の内容や質が異なると考えられる。
- プログラムの今後の課題として、ゲストの一人は、除雪作業が必要となる天候やタイミングに合わせて計画する、滞在先から離れた場所(上富良野町)でのボランティア除雪は移動時間が長く非効率的であるため、滞在先近隣でのボランティア除雪が望ましい、等を指摘していた。

図表4-4 ホームステイ型除雪支援実験 アンケート調査結果(ゲスト)

項目		結果
参加理由	参加したいと思った理由	・「北海道に行きたかった」と「除雪を体験したかった」がゲストに共通した理由
ホームステイ先の除雪体験	実施日	・2/18のみが2名、2/18-19の両日をした人が2名
	作業時間	・全員が午前中のみ作業 ・最長が1時間半
	作業内容	・玄関及び家周辺の除雪と運搬排雪作業が中心 ・ホストの屋根の雪下ろしの手伝いや融雪槽への投雪を体験したゲストもいた ・ホスト宅だけでなく、両隣の高齢者宅の歩道除雪を実施したゲストもいた
	作業体制	・一人を除く全員がホストと一緒に作業
	作業の疲労度	・「ちょうど良かった」が3名、「思ったより楽だった」が1名。
	作業の安全度	・全員が「安心して作業できた」
	作業中に困ったこと	・全員が「なかった」
	作業の事前準備	・全員が「役立った」
プログラム全体の満足度	今回のホームステイの感想	・3名が「よかった」 ・残り1名は「どちらとも言えない」
	今後の参加意向	・3名が「はい(今後も参加したい)」 ・残り1名は「いいえ(参加したくない)」
感想	<p>・このような良い機会をつくってくださり本当にありがとうございます。良い経験をたくさんして楽しかったです。</p> <p>・雪が少なく今回はちょっと残念。この数日間に雪が降っていないため、役に立つことは出来なかった。天候やタイミングの選定することも今後の活動設計の留意点になるのではないかと思う。</p> <p>・スケジュールの作成もより効率的なものをつくることを深く考えるべきであると思う。ホストファミリーはもちろん、ホストファミリー以外の所で活動する場合には、滞在地の近いところ(移動時間がたくさんかからないところ)を選べると、時間的に効率的であり、体力にも楽(負担にならない)になり、もっと良く役に立つことができると思う。</p>	

2) ホストファミリーのアンケート結果

- ホストファミリーの募集段階では、除雪を必要とする家庭を見つけるのが困難であったが、最終的には、全てのホストファミリーが日常的に除雪する家庭であった。
- 今冬は例年よりも少雪であり、ゲスト滞在期間中もまとまった降雪が見られなかったが、それぞれのホスト先ではゲストに除雪する機会を備えたように思われる。中には、近隣の高齢者宅前の歩道除雪を一緒にしたケースもあった。
- ゲストの除雪体験についても、ホスト全員が肯定的であり、ゲストの働きぶりに感心していた。障害を持つホストと60歳代、70歳代のホストについては、ゲストが除雪することで「助かった」とコメントしている。
- ゲストに除雪を依頼することはホスト全員が「良い」と考えており、そのうち、「交流」や「異文化理解」の一助になることを示唆するコメントもあった。
- あるホストは、除雪に慣れていないはずのゲストが意外にも上手にスコップ等を使って除雪しているのを見て安心したとコメントしたが、これは事前の除雪実習や上富良野での除雪体験が活かされているものと考えられる。
- ゲストの感想にもあったが、ホストの感想にも、ホームステイ先から遠方へのボランティア除雪は時間や体力的にも無理があるため、ホームステイ近辺での活動が望ましいとのコメントがあった。今後のプログラムを検討する上で十分配慮すべき点である。

図表 4 - 5 ホームステイ型除雪支援実験 アンケート調査結果(ホストファミリー)

項 目		結 果
属性	性別・年齢	・40代～70代まで
	ホストファミリー歴	・1家庭は初めて、残りは4年～30年のホストファミリー歴あり
	家族構成	・3家庭は夫婦、1家庭は子供2人の4人家族
	居住年数	・1年～30年と幅広い
	居住形態	・3家庭は「戸建て」、1家庭が「アパート/マンション」
除雪習慣	居住場所での除雪 ・ご自分で(または家族)定期的に家や周辺を除雪しますか	・全家庭で「する」 ・玄関/出入口の他、車庫/駐車場、屋根もあった
ゲストの除雪体験	体験の有無、実施日、時間	・全家庭で「はい」 ・体験実施日はゲストとの記録のズレがあったが、作業内容は同じ
	作業内容	・「玄関/出入口等を除雪」「雪を運び出す(運搬排雪)」が中心 ・その他、車庫の屋根の雪下ろしの排雪、近所の高齢者宅前の歩道除雪などもあった
	印象	・ゲストの一生懸命な働きぶりに感心した様子
	手伝ってもらって	・「助かった」「良かった」「安心した」など
全体	北海道の暮らしを理解する上で、ゲストが除雪を体験することについてどう思いますか	良いと思う 「異文化理解」、「交流」などに良い
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は札幌の家庭にホームステイしながら、メインの除雪体験の場は上富良野町でした。このような形では時間的にも大変だったろうと思います。やはり除雪体験をする市町村にホームステイして、その地域の住民と交流できるようにするのが良いのではないのでしょうか？ ・札幌にも除雪ボランティアを必要としている高齢者の住宅はたくさんあります。これから色々検討すべき課題もあるかと思いますが、有意義な実験だと思えますので、若い人達ということでなく、体を動かせる人達が楽しんで参加できるように考えていただきたいと思います。 ・時期的には1月下旬頃が最も人手を必要としている時期ではないでしょうか？ ・今年は雪が大変少なく本来の北海道とはちょっと違った感じだったのが残念です。 	

3) ホストファミリー役員

補完的な調査として、札幌市のホストファミリー制度の役員 10 名に、ゲストに対する除雪体験についてのアンケートを行った。

- 日常的に除雪をすると回答したのは 7 家庭だったが、これまでにゲストに除雪のお手伝いを依頼したのは 1 家庭のみであった。
- 日常的に除雪するが、今までゲストにお願いしなかったのは、「たまたま機会がなかった」が大半であり、「申し訳ない」、「冬にゲストを受け入れたことがない」などの理由もあった。
- ゲストが除雪を体験した家庭では、除雪機を使ったときに「楽しんでいた」という印象をもった。
- ゲストに除雪を依頼することに関し、ほとんどが「良い」と考えており、「交流」や「異文化理解」の一助になると考えるホストもいる。

図表 4 - 6 ホストファミリー役員：ゲストへの除雪依頼に関するコメント

ゲストに除雪を依頼することに関するコメント	性別	年齢	ホストファミリー暦
・南の国の人なら珍しいかもしれない。	女性	50 歳代	3 年
・したかったらよい経験になる。	女性	50 歳代	12 年
・アジアからのゲストが多く、雪を見た事がないと思うので、良い経験になる。(ゲストは)お客様ではないので。	女性	40 歳代	3 年
・ステイ先のファミリーのお手伝いは基本的にした方が良いと思うので、その一環として。	女性	40 歳代	10 年
・雪に親しむ事と雪国の生活の大変さを理解する。	男性	50 歳代	8 年
・楽しい経験のひとつとなると思われます。	女性	50 歳代	6 年

(6) 当初予定の変更点と検討課題

北海道部会の三浦委員と根子委員の協力の下、ホームステイ型除雪支援実験におけるゲストとホストファミリーを募集したが、いくつかの問題が発生し、当初予定していた募集条件を変更せざるを得なくなった。その問題点と今後の検討課題を以下に整理する。

1) ゲストの募集について

ゲストの募集に関する問題点及び変更内容は、図表4-7のとおりである。日本人学生は、ホームステイ体験を「気を遣う」、「わずらわしい」と考える傾向が強い。また、留学生にとってホームステイは異文化体験の絶好の機会となるため、日本人学生よりも希望者が多いと考えられる。したがって、ホームステイ型は主に留学生を想定したプログラムとして検討し準備を進めることが現実的と推察される。

図表4-7 ゲスト募集の問題点と変更内容

問題点	結果(当初予定より変更)
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の学生に呼びかけたが、「ホームステイは気を遣う」、「友人と一緒に泊まりたい」などの理由で断るケースが多かった。 <p>(首都大学東京)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生(外国人)のみの参加となった。

2) 現状のホームステイ制度を利用したホストファミリーの募集について

現状のホームステイ制度(札幌市国際プラザ)を利用したホストファミリーの募集に関する問題点及び変更内容は、図表4-8のとおりである。

「支援が必要な高齢者」が他人の面倒を見る余裕がないと考えられることから、自助努力による除雪が困難な高齢者がホストファミリーとなることは考えにくい。したがって、ホストファミリーとして登録する高齢者世帯は健康であり、あえて除雪支援を受ける必要のない家庭(裕福な家庭)であると考えられる。「除雪」が「交流」と結びついていると認識しない限り、ホストファミリーが「除雪支援を受ける」目的でゲストを受け入れることは期待できないであろう。

今後の課題としては、高齢者世帯にこだわらず、除雪を必要としているホストファミリーに対して参加募集を呼びかけていく必要がある。さらに、ホームステイによる「除雪」がホストとゲストの「交流」をより深めるきっかけになるかどうかをまず検証し、こうした「交流」を広げることで、地域全体の除雪の担い手が確保されるかどうかを検討する必要がある。

図表 4 - 8 ホストファミリー募集の問題点と変更内容

問題点	結果（当初予定より変更）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 歳代で戸建てに住む高齢者世帯 20 件に協力を要請したが、 ロードヒーティングなどの消融雪施設がある。 民間の除雪事業者と既に契約している。 などの理由で全て断られた。 ・ 実験の中心である「ホストファミリー先でゲストが除雪すること」が、本来のプログラムの目的である「異文化交流」と関連が希薄であるため、受け入れに消極的となる家族が多かった。 <p style="text-align: right;">（札幌国際プラザ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸建てに住む高齢者世帯、または、除雪を必要とする世帯にかかわらず、従来の「異文化交流」を目的としたプログラムとして、ホストファミリーを募集する。 ・ ホストファミリー宅での除雪についてはホスト側の希望を優先する。可能であれば、除雪体験を実施できるサポートやフォローをお願いする。 ・ ゲストにはホームビジット型除雪実験に参加していただき、ボランティア除雪を体験していただく。

< 参考意見 >

岩見沢市栗沢町民生委員児童委員協議会 会長 木村良三氏

- ・ 独居高齢者宅に町外の若者（学生など）が滞在しボランティア除雪をすることは、以下の理由で困難と考えられる。
 - 見知らぬ他人を自宅に入れることに対し抵抗感がある。
 - 見知らぬ他人に食事を提供する等の「お世話」をおっくうと感じる。
 - 高齢者を狙った詐欺が横行している中、民生委員としては「知らない人間を家の中に入れたい」等、見知らぬ人に対して警戒するようにアドバイスしている。
- ・ ただし、除雪できる若い人が非常に少ないため、除雪ボランティアは積極的に受け入れていきたい。

(7) ホームステイ型除雪支援の推進に向けた課題と方向性

実験状況及びアンケート調査結果から、ホームステイ型除雪支援を推進するにあたっての課題と方向性を整理すると、以下のとおりである。

) 現状のホームステイ制度を活用した「除雪支援」と「交流」

- ホストファミリーとして既に登録をしている世帯は、概ね健康であり、経済的にもゆとりがあって、あえて除雪支援を受ける必要のない家庭が多かった。
- 本来は「異文化交流」を目的としているホストファミリーにとって、「ホスト宅での除雪支援」が本来目的とあわない(と、認識しがちである)ため、実験の主旨を理解していただくことが困難であった。
- 実際に、ホストファミリー役員対象のアンケートによると、これまでゲストに除雪のお手伝いをお願いしたケースはほとんどなかった。
- しかし、本実験に参加したホストファミリーは、アンケート調査で、ゲストの除雪体験は意義あることであり「異文化理解」のきっかけにつながるとの考えを示した。また、ゲストの除雪がホストファミリーの直接的な手助けになったことも明らかになった。
- このように、ゲストによる「除雪支援」がホストファミリーの潜在的なニーズであることが示唆される。(特に、高齢のホストファミリーに対する除雪支援のニーズは高い。)

- 今後は、ゲストによるホスト先での「除雪支援」が、「交流」を深めるきっかけとして定着するように継続的な取組が望まれる。

) 日本人学生及びホストファミリー未経験世帯の「ホームステイ観」

- 日本人学生は、ホームステイを「気を遣う」「わずらわしい」ととらえる傾向が強い。
- ホストファミリーを経験したことのない高齢者も同様に「気を遣う」等、見知らぬ他人を自宅に入れることに対し抵抗感を示す。
- 最近、特に高齢者を狙った詐欺が横行し、いわゆる「除雪詐欺」も発生していることから、見知らぬ人には警戒するようにとの指導を民生委員が行っている。

- 最初から「ホームステイ」を前提としたプログラムではなく、「ホームビジット」による除雪支援プログラムを導入し、除雪支援側と被支援側のコミュニケーションが深まった段階で、「ホームステイ」に移行できる仕組みが求められる。

) ホームステイ先での除雪体制

- 本実験では、1名のゲストにおいて、プログラムに対する満足度が比較的低く、次回の参加意向を示さなかった。
- この1名は、ホームステイ先での除雪を単独で行っており、ホストファミリーと一緒に作業していなかった。
- 除雪作業を単独で行う場合は、ホストファミリーと一緒にする場合よりも「労働」や「作業」の色合いが強く、ホストファミリーとの「交流」が希薄であったことが考えられる。

- 除雪作業をホームステイ先での「労働」ではなく、ホストファミリーとの「交流」のきっかけになることを前提条件として実施するべきである。

) 除雪経験のないゲスト（来訪者）に対する除雪実習

- 今回はオリエンテーションの中で除雪実習を行い、除雪未経験であったゲストに除雪の基本的な動作や注意事項を伝えることとした。
- 結果、除雪時の事故もなく安全に作業を終了できた。また、ホスト側としても、ゲストの除雪作業ぶりを見て安心するなどのコメントもあった。

- 除雪経験のない人が除雪ボランティアに参加するにあたっては、除雪実習を事前に行うことは安全確保において重要であり、今後も実施すべきである。

2 ホームビジット型除雪支援実験

【北海道部会】

(1) 実施目的

他地域から雪処理の担い手を確保し、平時より他地域との交流を基にした雪処理の相互扶助のあり方を検討することを目的に、札幌在住の若者及び道外から観光に訪れた若者等によるホームビジット型の除雪支援ツアー実験を実施した。

なお、除雪支援ツアーの実施に際しては、図表 4 - 9 のとおり、「体験・交流型」と「支援型」の2パターンを企画した。

実験で確かめたいこと

- 札幌在住者または道外観光客によるホームビジット型の除雪支援ツアーが、中山間地域の高齢者世帯への除雪支援として有効な策となり得るかを検証。

図表 4 - 9 除雪支援ツアー 名称・内容・場所

パターン	名称	内容	場所
体験・交流型	雪はね体験隊！	ボランティア除雪だけでなく、地域交流、イベントを組み合わせた日帰りツアー	上富良野町
支援型	雪かきボランティア	ボランティア除雪のみの日帰りツアー	岩見沢市栗沢町 万字地区

(2) 雪はね体験隊(上富良野町)の実施報告

1) 雪はね体験隊 実施概要

北海道上富良野町あすなる団地において、以下のとおり、札幌市内の大学生等を中心としたホームビジット型除雪支援ツアーを実施した。

実施日時

平成 19 年 2 月 17 日(土) 8:30 ~ 21:30

場所

北海道上富良野町泉町 1 丁目 あすなる団地 (13 世帯対象)

参加人数

29 名(事務局除く) うち 1 名は美瑛から現地参加

募集方法

- 検討部会の委員を通じて、募集ポスター掲出およびチラシを配布
- シーニックパイウェイ支援センターのホームページに掲載

参加費

2,000 円（食費、入浴料込み）

内容

- ・ 玄関先、庭周辺・窓の下の除排雪、屋根雪の運搬排雪
- ・ 除雪支援先との交流（食事付き）
- ・ 温泉入浴
- ・ 地元で開催される冬のアートイベント「ウインターサーカス 2007」鑑賞

当時配布物

- ・ 除雪ガイドブック「人力除雪学序説」
- ・ 当日のスケジュール
- ・ 除雪の 10 ケ条（「雪はね体験隊！」しおりは事前に送付）
- ・ アンケート調査票
- ・ 軍手
- ・ シーニックバイウェイ情報誌「SCENE」

現地受入協力

- ・ 上富良野町役場（企画財政課企画振興班）
- ・ 上富良野町商工会

ツアー企画協力（申込・問合せ先）

有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター

当日の除雪指導

北海道医療大学 看護福祉学部 人間基礎科学講座 教授 森田 勲

留意点

- 除雪作業範囲・レベルについて
 - ・ 基本的には協力世帯で必要とされている作業をツアー参加者が実施する。
 - ・ 屋根の雪下ろし作業は事故リスクが高く、ツアー参加者のレクリエーション保険の適用が困難であるため、雪下ろし作業は地元側で対応し、ツアー参加者は、玄関前の間口除雪や世帯周辺の除排雪作業を行う。
- 除雪用具について
 - ・ 除雪用具（スコップ、スノーダンプ）は上富良野町役場に準備していただく。
 - ・ 防寒具や長靴などはツアー参加者が各自準備する。
- 保険について
 - ・ ツアー参加者全員にレクリエーション保険をかける。

当日の流れ

8:30	JR 札幌駅北口集合
8:45	JR 札幌駅出発(集まり次第出発) <バスで移動 シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート、車中で食事>
11:30	上富良野町(除雪現場)到着、体験準備
12:00	除雪体験開始
14:30	除雪体験終了、白銀荘へ出発
15:00	白銀荘 到着 ・食事&交流会:地元の食材を使った手作り料理を地域の人と一緒に ・温泉入浴
17:15	・ウインターサーカス・白銀荘会場 鑑賞
17:45	白銀荘 発 車中でアンケート配布 <ウインターサーカス・深山峠・見晴台・寒々村会場鑑賞>
21:30	JR 札幌駅到着・解散 アンケート回収

図表 4-10 募集チラシ(左:表、右:裏)

ちびっと大雪、でも心も体も暖まる雪国のお手伝い。

雪はね体験隊!

in 上富良野

2007年2月17日(土) 8:30~21:30

【開催日時】
2007年2月17日(土) 8:30~21:30

【開催場所】
上富良野町(除雪現場)

【対象年齢】
小学生以上

【参加費】
2,000円
-食費、入浴料込み
-参加費別途お支払い

【募集期間】
平成19年2月9日(金)
お募集は必ずお電話が必須となります。

【対象人数】
20歳以上

【募集人数】
30名程度

【お問い合わせ先】
募集係

【お申し込み・お問い合わせ先】
札幌市中央区ニセウヰイウェイセンター(TEL:011-204-7108)
〒060-0051 札幌市中央区南一条西5丁目1番1号
TEL:011-204-7107 FAX:011-204-7108
e-mail: info-sc@scenicbyway.jp

ちびっと大雪、でも心も体も暖まる雪国のお手伝い。

雪はね体験隊!

2007年2月17日(土)
8:30~21:30

【スケジュール】(予定)※天候により変更される場合があります。

8:30	JR札幌駅北口集合
8:45	JR札幌駅出発(集まり次第出発) <バスで移動 シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート、車中で食事>
11:30	上富良野町(除雪現場)到着、体験準備
12:00	除雪体験開始
14:30	除雪体験終了、白銀荘へ出発
15:00	白銀荘 到着 ・食事&交流会:地元の食材を使った手作り料理を地域の人と一緒に ・温泉入浴
17:15	・ウインターサーカス・白銀荘会場 鑑賞
17:45	白銀荘 発 車中でアンケート配布 <ウインターサーカス・深山峠・見晴台・寒々村会場鑑賞>
21:30	JR札幌駅到着・解散

【お申し込み・お問い合わせ先】
札幌市中央区ニセウヰイウェイセンター(TEL:011-204-7108)
〒060-0051 札幌市中央区南一条西5丁目1番1号
TEL:011-204-7107 FAX:011-204-7108
e-mail: info-sc@scenicbyway.jp

2) 雪はね体験隊 当日のタイムテーブル

8:30 JR 札幌駅北口集合

8:45 出発

- ・貸切バスに参加者、TV 北海道取材陣(3名)、dec スタッフ2名、ガイド1名が乗車。(この他 dec スタッフ2名は先発隊としてレンタカーにて7:30頃出発)
- ・しおり(抜粋)、軍手、須田先生・森田先生著『人力除雪学序説』、シーニックバイウエイ情報誌「SCENE」、お茶・お弁当を配布。車内にて、事業説明、旅程確認。
- ・道の駅「三笠」と見晴台公園(上富良野)でトイレ休憩。

10:30 先発隊が上富良野町役場に集合、現地確認

- ・自家用車で来られた森田先生(除雪指導:北海道医療大学)、美瑛からの参加者が合流。
- ・上富良野町役場の受入窓口担当の佐藤主査が除雪用具(スコップ、スノーダンプなど)を軽トラックに積んで現地へ誘導。
- ・あすなる団地住民会(泉町住民会)会長の米澤義英氏が除雪場所、作業内容を先発隊に説明、作業人数の確認。

12:30 国道12号の渋滞で、当初の予定より1時間遅れでバスがあすなる団地に到着

- ・佐藤主査が見晴台公園でバスと合流、バスを現地まで誘導。
- ・森田先生より除雪時の注意事項など参加者に説明。

12:45 除雪作業開始

- ・スタッフの指示で参加者を4班に分け、それぞれの班に住民会役員がついてグループに指示を出す。
- ・屋根の雪下ろしは上富良野町役場の担当者及び地元の方が実施。その他の除排雪作業を参加者が行う。
- ・各班の持ち場が終了した時点で、他の班の作業を応援。

14:15 除雪作業終了、撤収

14:30 あすなる団地から白銀荘へ出発

- ・住民会の米澤会長他2名の方と上富良野町役場の野崎主幹が食事&交流会出席のためバスに同乗。

15:00 白銀荘到着

- ・地元食材の豚肉、米、ジャガイモなどを使った食事と交流会。
- ・温泉入浴。

17:30 ウィンターサーカス白銀荘会場のライトアップ

- ・同会場のライトアップが17:30~に変更となったため、出発を18時に変更。

18:00 白銀荘から深山峠、見晴台公園へ出発

- ・深山峠会場でバスをUターンさせて見晴台公園へ。

18:50 ウィンターサーカス見晴台公園を見学、トイレ休憩

19:10 札幌に向かって出発(三笠から高速道路を利用)

- ・バス車内でアンケート配布、回収。
- ・各参加者から感想を発表。

21:30 JR 札幌駅北口到着、解散

3) 雪はね体験隊 活動状況

雪はね体験隊の活動の様子は、以下のとおりである。

写真 4 - 7 森田先生による除雪指導



写真 4 - 8 作業前のグループ分け

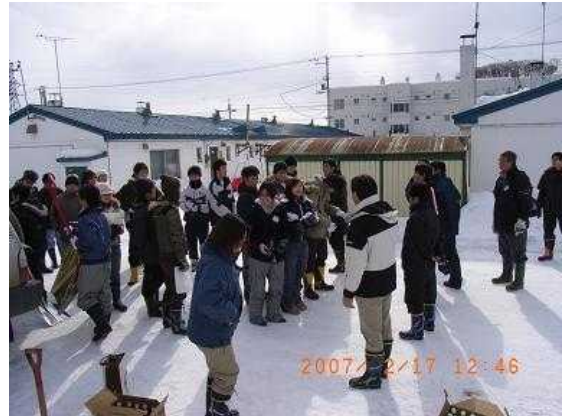


写真 4 - 9 窓の下の除雪 (開始直後)



写真 4 - 10 窓の下の除雪 (開始 15 分後)



写真 4 - 11 屋根の雪下ろし (地域住民)



写真 4 - 12 下ろした屋根雪の運搬排雪



【特記事項】

- 平年より雪が少なかったが、融けて凍った雪山や氷の固まりが住宅周辺に積み上げられていたため、非常に重い雪（氷）の処理や運搬排雪が作業の大半を占めていた。
- 作業中の天候は良好であったため、防寒具を脱いで作業することになった。半袖・Tシャツ姿で作業する参加者も多く、作業中と作業後の体温調整に十分配慮した服装準備が必要と考えられる。
- 固まった雪や氷が多かったため、スコップ1本、つるはし1本、スノーダンプ1台が破損した。そのうち、つるはしとスノーダンプは地元住民が所有していたものであり、本来であれば主催者側が弁償すべきであったが（注：通常であればレクリエーション保険が適用）住民会長のご懇意により住民会で新規購入をすることになった。このような作業中の破損に関する事後処理の方法については今後の課題である。
- 帰りのバス車両の中での意見によると、参加者の満足度はかなり高く、参加者自身も期待以上のものであったことがうかがえる。
- しかし、移動時間が長い中で様々なプログラムを消化せざるを得ない過密スケジュールであったため、地元との交流の時間が十分でなかった等の問題がアンケートで指摘されていた。
- 移動中や除雪作業前後のトイレ休憩のタイミングは、当初のスケジュールではあまり考慮されていなかったため、場合によっては、除雪現場でのトイレ確保に奔走しなければならないケースも想定される。作業時のトイレ休憩のタイミングは十分配慮が必要である。

(3) 雪かきボランティア(岩見沢市栗沢町)の実施報告

1) 雪かきボランティア 実施概要

北海道岩見沢市栗沢町万字地区にて、以下のとおり、札幌市在住の大学生によるホームビジット型除雪支援ツアーを実施した。同地区は、岩見沢市街地から約 20km 山間に入った旧産炭地であり、高齢化率が 60%を超える特別豪雪地帯である。

日 時 : 平成 19 年 2 月 14 日(水)
 場 所 : 北海道岩見沢市栗沢町万字地区の独居老人宅 2 軒
 募集方法 : 北海道大学内に募集チラシを掲示
 参加者及び参加人数 :

北海道大学名誉教授 須田 力 氏
 北海道医療大学教授 森田 勲 氏
 除雪支援ツアー応募者 10 名
 事務局 2 名

図表 4 - 11 岩見沢市栗沢町万字におけるホームビジット型除雪支援の募集チラシ

急募 雪かきボランティア

場所: 岩見沢市万字(岩見沢から 20km山に入った旧産炭地で高齢化率60%以上、特別豪雪地帯指定地です)

日時:平成19年2月14日(水)午前8時~午後3時30分



北大生たちと体育教員による旧産炭地、独居老人宅の除雪ボランティア、平成 18 年 2 月、岩見沢市美流渡地区にて

スケジュール(予定)
2月14日(水)8時北大正門前集合、
8時10分出発
10時 万字交通センター到着
10時10分~12時30分 除雪
12時30分~13時 美流渡に移動
13時~13時30分 昼食(ラーメン屋さん)
13時30分 美流渡出発
15時30分 北大正門前到着 解散

交通費無料、ラーメン代は主催者が負担します。
 雪かき未経験者でも十分役にたてます。
 防寒服、帽子着用、手袋、長靴で来て下さい。
 重い雪のため多量の発汗も予想されます。手ぬぐい、替えの下着もご用意下さい。
 往復は、(社)北海道開発技術センターの車に分乗します。

申込み、連絡先
 2月9日(金) 17時まで下記まで、お名前、所属、住所、電話番号をお知らせ願います。
 007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13
 北方圏体育スポーツ研究会
 須田 力 (元北海道大学大学院教育学研究科教授)
 電話/ファックス: 011-752-7217 メール: sudariki@poppy.ocn.ne.jp

2) 雪かきボランティア 当日のタイムテーブル

8:00	北海道大学正門前集合
	・須田力名誉教授から、万字地区の概要説明（高齢化の状況、除雪場所の説明）。
8:10	出発
	・学生8名がレンタカー2台に分乗。
	・自家用車で参加している方1名。
	・計3台で万字交通センターへ向け出発。
10:30	万字交通センター到着、除雪作業開始
	・自家用車で来られた森田教授と合流。
	・須田名誉教授の指示で2グループに分かれ、それぞれの除雪場所へ移動。
	・除雪場所 - 須田名誉教授、万字地区町内会長、事務局員1名、一般男性1名、学生3名（全員男性）が担当。
	・除雪場所 - 森田教授、事務局員1名、学生5名（男性3、女性2）が担当。
11:30	除雪場所 の除雪終了
	除雪場所 の応援に移動
13:00	除雪場所 の除雪終了
	・北海道岩見沢市栗沢町美流渡に移動。
13:30	北海道岩見沢市栗沢町美流渡にあるラーメン屋にて昼食
	・アンケート用紙配布・記入・回収。
14:30	札幌へ向け出発
15:50	北海道大学近辺にて解散

3) 雪かきボランティア 活動状況

参加者は出発に先立ち、須田力北大名誉教授から、岩見沢市栗沢町万字地区における高齢化の状況、今日に至るまでの歴史的経緯、除雪支援対象の独居老人宅についての説明を受けた。

今回の除雪対象世帯は2軒であり、2グループに分けて作業を行った。除雪場所は、須田名誉教授、事務局員1名、一般男性1名、学生3名（全員男性）が担当となり、これに地元の協力者として万字地区の町内会長が参加した。作業内容としては、須田名誉教授、万字地区町内会長、一般男性、事務局員が屋根の雪下ろしを担当し、学生3名は、家屋周り及び屋根の除雪を担当した。

除雪場所は、森田教授、事務局員1名、学生5名（男性3、女性2）が担当となり、家屋周りの除雪を行った。

なお、作業の最中に近隣住民から、雪捨て場についてのクレームが寄せられた。

写真 4 - 13 出発前の説明 1



写真 4 - 14 出発前の説明 2



写真 4 - 15 除雪場所 作業前



写真 4 - 16 除雪場所 作業後



写真 4 - 17 除雪場所 作業前



写真 4 - 18 除雪場所 作業後



(4) ホームビジット型除雪支援実験の評価 - アンケート結果 -

1) 雪はね体験隊 参加者アンケート結果

雪はね体験隊では、プログラム終了時に、参加者に対してアンケート調査を実施した(回答者数 29 名)。調査項目は図表 4 - 12 のとおりであり、以降に調査結果を整理する。

図表 4 - 12 参加者アンケート調査項目 1/2

調査項目		選択肢	検証事項
属性	性別	男 女	基本属性
	年齢	10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上	
	出身地/国籍	札幌市 札幌市内の道内 道外 海外	
	現住所	札幌市 札幌市内の道内 道外 海外	
除雪/ボランティア経験	居住場所での除雪経験 ・自分で家の周辺を除雪したことがありますか?	したことがある 1.玄関/出入口 2.車庫/駐車場 3.屋根 4.その他 まったくない 1.雪が降らない 2.ロードヒーティングがある 3.他の人がする 4.その他	除雪経験またはボランティア経験の有無と、参加意欲の関係
	除雪熟練度 ・除雪は慣れていますか?	慣れている あまり慣れていない 全く慣れていない	
	ボランティア活動経験 ・ボランティア活動をしていますか?	活動している したことはあるが、今はしていない 今までしたことがない	
	除雪ボランティア経験 ・これまで除雪ボランティアをしたことがありますか?	したことがある 1.近所の玄関先等の除排雪 2.近所の屋根の雪下ろし 3.遠方での除雪・屋根の雪下ろし 4.その他 したことがない	
参加理由	(HS)	北海道に行きたかった ボランティア活動をしたかった 除雪を体験したかった ホームステイを体験したかった 友人・知人に誘われた その他	* 参考調査
	(HV: 上富良野)	上富良野に行きたかった ボランティア活動をしたかった 除雪(雪はね)を体験したかった 地元の食材を使った料理を食べたかった 地元の人と交流したかった 温泉に行きたかった ウィンターサーカス2007を見たかった 友人・知人に誘われた その他	
除雪体験 (HS)	実施日と作業時間	日時、時から 時まで	作業の実態把握
	作業体制 ・誰と一緒に除雪しましたか?	ホストファミリーと 一人で 両方のケースがあった	
除雪体験 (共通)	主な作業内容	玄関/出入口等を除雪 雪を運び出す その他	
	作業の疲労度	ちょうど良かった 思ったより楽だった 思ったより疲れた	
	作業の安全度 ・安心して作業できましたか?	安心して作業できた 危険を感じたことがある (どのような?)	
	作業中に困ったこと	あった(どのような?) なかった	
	作業の事前準備 ・事前準備として除雪に関する冊子配布や注意事項の行いましたが、役に立ってでしょうか?	役立った 役に立たなかった どちらともいえない 気づいたこと	

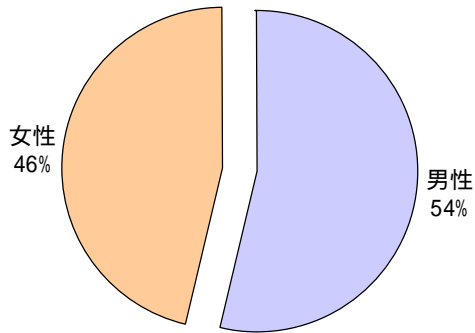
図表 4 - 12 ホームビジット型除雪支援 アンケート調査項目 2/2

調査項目		選択肢	検証事項
アフター除雪の満足度 (HV:上富良野)	食事	よかった よくなかった どちらともいえない 印象に残ったこと	*参考調査
	地元の人との交流	よかった よくなかった どちらともいえない 印象に残ったこと	
	温泉	よかった よくなかった どちらともいえない 印象に残ったこと	
	ウインターサーカス2007	よかった よくなかった どちらともいえない 印象に残ったこと	
企画(HV:上富良野)	プログラム/活動の量	問題なし することが多くて忙しかった することがなく退屈だった	盛りだくさんのプログラム はよかったか?
	参加費 ・今回の参加費は¥2,000でしたが、実際の経費より低い額となっております。あとどのくらい追加しても良いと思いますか?	プラス¥1,000 プラス¥2,000 プラス¥3,000 プラス¥4,000 プラス¥5,000 プラス¥5,000より多く 追加したくない	参加費の設定
企画(HV)	宿泊プログラムについて ・今回は日帰りでしたが、現地で宿泊するプログラムになった場合、参加したいと思いますか?(参加費も増額となります)	参加したい どのようなプログラムを希望しますか? 1.除雪体験のみ 2.除雪体験+地元の交流 3.除雪体験+地元の交流+観光/イベント参加 4.その他 参加したくない	宿泊プログラムの可能性
プログラム全体の満足度	(共通)	よかった よくなかった どちらともいえない 印象に残ったこと	属性、除雪/ボランティア 経験とのクロス
全体(HV共通)	今後の意向 ・今後、同じような体験ツアーがあったら、参加したいと思いますか?	はい どのような地域で? 1.人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域(例えば) 2.自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域(例えば) 3.文化や歴史遺産の破損・倒壊が危ぶまれる地域(例えば) 4.地震、洪水、豪雪、火山噴火等の災害に見舞われた地域(例えば) 5.その他 いいえ	

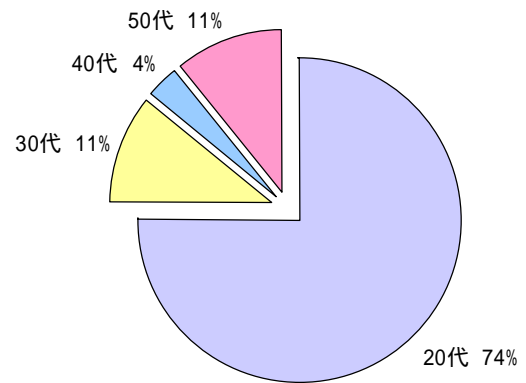
HS: ホームステイ型 HV: ホームビジット型

) 参加者の属性 (N=29)

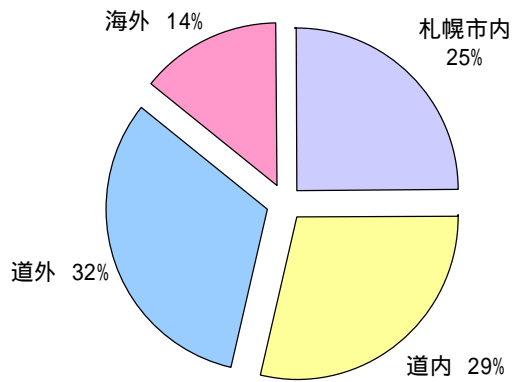
図表 4 - 13 性別



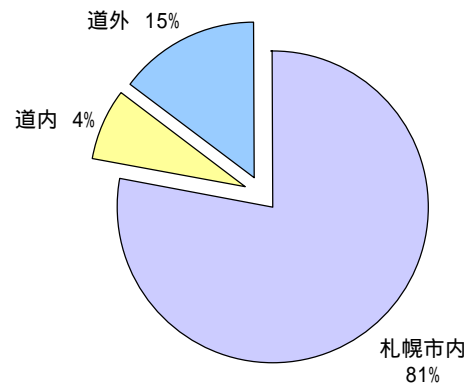
図表 4 - 14 年齢層



図表 4 - 15 出身地

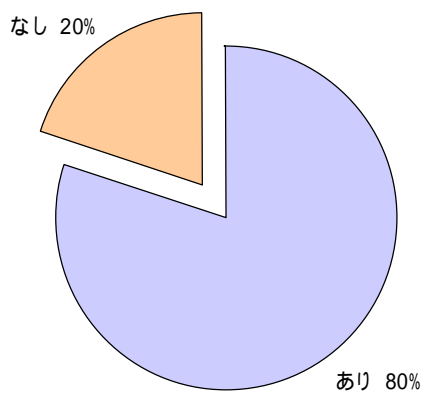


図表 4 - 16 現住所

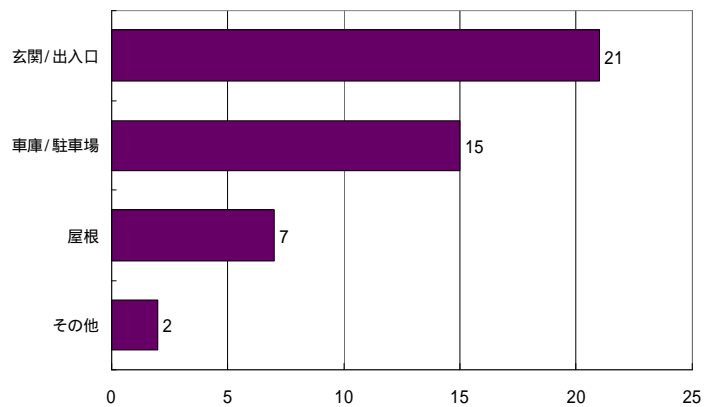


) 除雪作業・ボランティアの経験

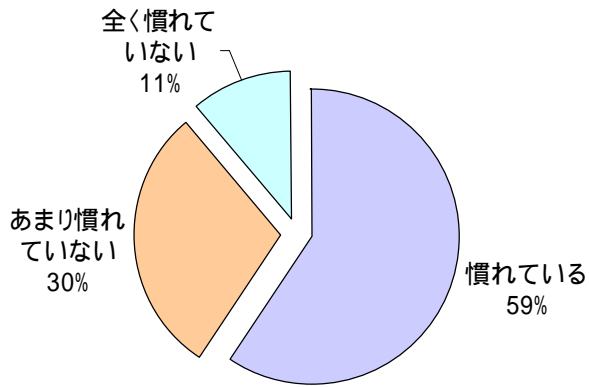
図表 4 - 17 除雪体験の有無



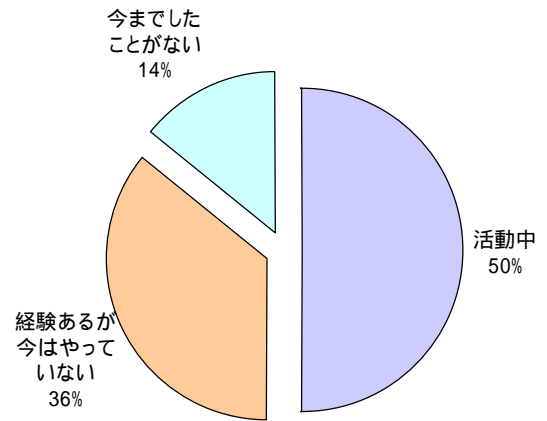
図表 4 - 18 除雪体験場所 (複数回答)



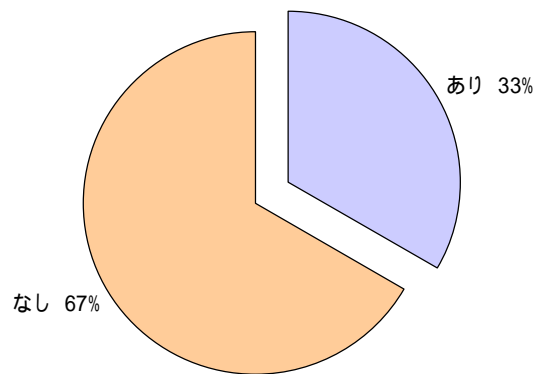
図表 4 - 19 除雪への慣れ



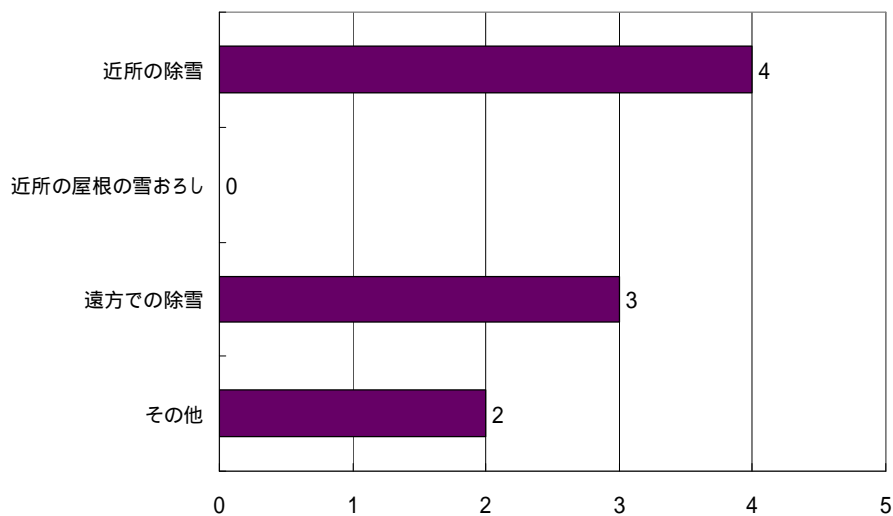
図表 4 - 20 ボランティア活動の経験



図表 4 - 21 除雪ボランティアの経験



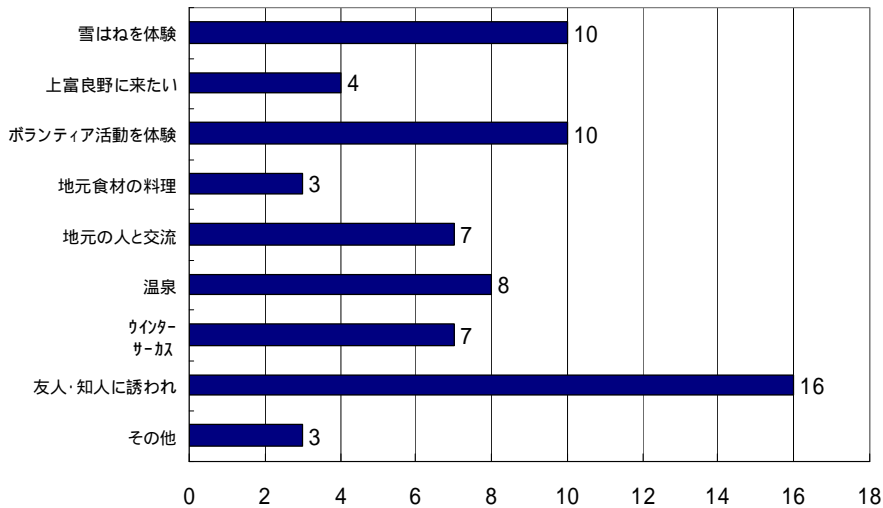
図表 4 - 22 除雪ボランティア経験者が除雪した場所 (複数回答)



) 参加理由

- 「友人・知人に誘われたから」が最も多いが、次いで、「ボランティア活動を体験したい」、「雪はね（雪かき）を体験したい」が多く、参加者のボランティア意識は比較的高い。

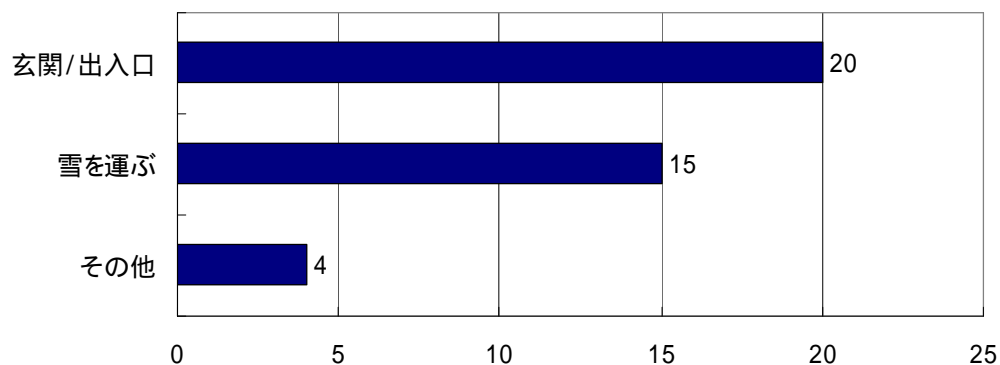
図表 4 - 23 参加理由（複数回答）



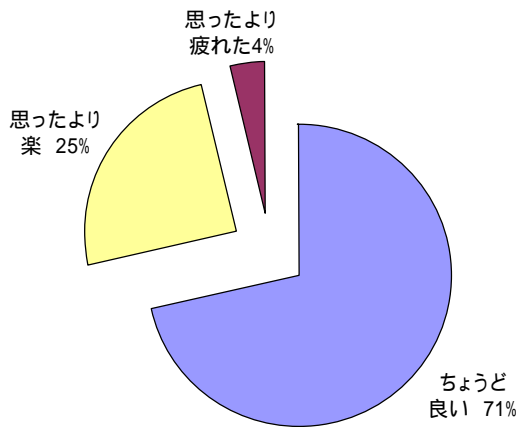
) 雪はね体験の内容について

- 実際に体験した作業は玄関や出入口の雪かきが多く、次いで除雪した雪を運ぶ作業であった。
- 作業の疲労度については、「ちょうど良い」が全体の約7割を占めている。「思ったよりも楽だった」を含めると、ほとんどの参加者は無理なく除雪作業ができたと感じている。
- 作業の安全性については、約9割が「安心してできた」と感じている。「危険を感じた」状況として、「スコップを振り回して危なかった」、「雪に埋もれた」が挙げられていた。
- 作業中に困ったことがあったかどうかについては、約8割が「なかった」と回答している。困ったことについては、作業中に用具（スコップやつるはし等）を破損したことや、用具が足りなかった等が挙げられていた。
- 除雪前に配布した冊子や事前説明については、約7割が「役立った」と回答している。

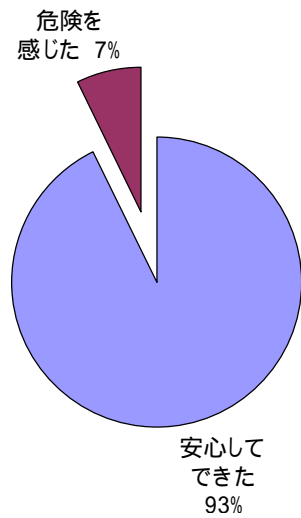
図表 4 - 24 雪はね体験：作業内容（複数回答）



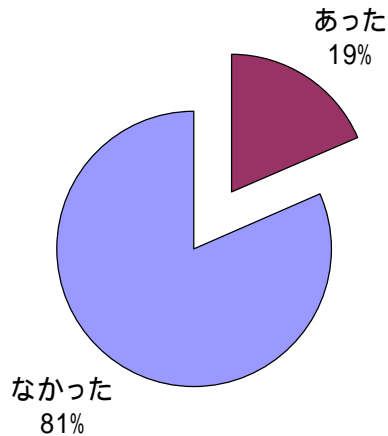
図表 4 - 25 雪はね体験：疲労度



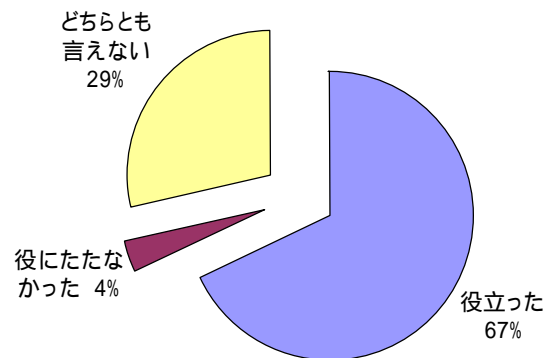
図表 4 - 26 雪はね体験：作業の安全性



図表 4 - 27 雪はね体験：困ったこと



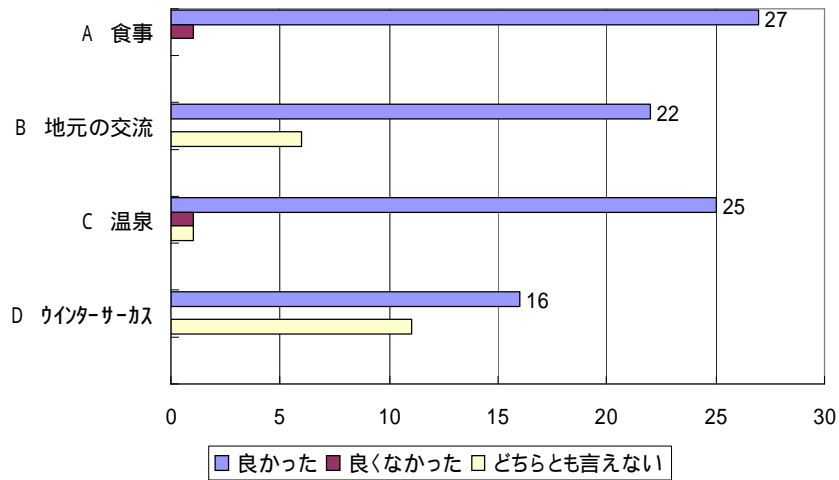
図表 4 - 28 雪はね体験：冊子・事前説明



) 除雪後のアクティビティについて

- 除雪後のアクティビティについては、参加者の半数以上が「食事」、「地元の交流」、「温泉」について「良かった」と回答していた。
- 「ウインターサーカス」については、当日のスケジュール調整で、見学を予定していた2つの会場をキャンセルしたほか、それぞれの会場で十分な時間を費やすことが出来なかったため、「どちらともいえない」と回答した人が多くあったと考えられる。
- 参加者が不満に感じたこととして、「食事と温泉の順序を逆にするともっと良かった」、「ご飯の時間帯が微妙でした。昼ご飯が食べづらかった」、「もう少し時間があれば」など、アクティビティの内容ではなく、プログラムの順番や時間割りに関することが挙げられていた。
- 印象に残ったこととして、「現地のおばあちゃんの笑顔」など、地元の人との交流に関するコメントが、他のアクティビティと同じ程度に寄せられていた。

図表 4 - 29 除雪後のアクティビティに対する満足度



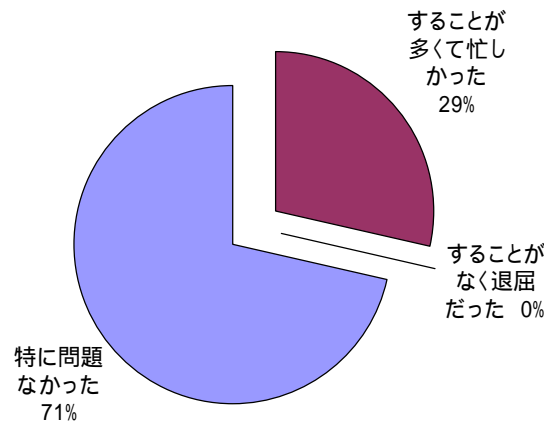
図表 4 - 30 除雪後のアクティビティ：印象に残ったこと

アクティビティ	印象に残ったこと（自由記入）
食事	寒い中での汁粉が美味しかったです
	チャーシュー・ニョキがおいしかったです
	おかわりがたくさんあった
	豚肉美味しかったです
	地元の美味しい食事でした
	お弁当ボリューム有り、でも食事と温泉の順序を逆にするともっと良かった
	イモが美味しかったです
	美味しかったです
	食べやすかった
	豚肉美味しかったです
地元との交流	美しい景色と共に地元の人達と楽しく出来ました
	ばあちゃんの笑顔
	地元のおばあちゃんと写真をとって色々話せた
	特に交流が無かった
	みんなとても暖かかったです
	おばあちゃんかわいい
	みんないい人でした
	会長さん面白い
	皆明るく元気だった
	地元の人との交流がもっとできたような気がします（高齢者他）
現地のおばあちゃんの笑顔	
温泉	面白かった人達が多かった
	露天風呂が気持ちよかったです
	露天風呂の熱
	すごく気持ちよかったです
	いっぱい温泉入って気持ちよかったです
	美瑛岳をみて感激した
	混浴が珍しくあったこと
いいお湯だった	
ウィンターサーカス	疲れが十分にとれた
	雪で色々な事が出来るんだなと改めて感じました
	もっと見たかったです
	あんまり良く見れなかった
	キレイでした
	もう少し時間があれば
	キレイ、お汁粉おいしかった
	最後に見た場所は素晴らしかった
	北海道らしい雪の芸術がスバラシイ
	これほど良いイベントであったとは
雪を有意義に使用していてキレイでよかったです	

) 当日のスケジュールについて

- 全体の約7割が「特に問題がなかった」と回答している。
- 「することがなく退屈だった」と回答した人はなく、「することが多くて忙しかった」と感じた人が数名いた。

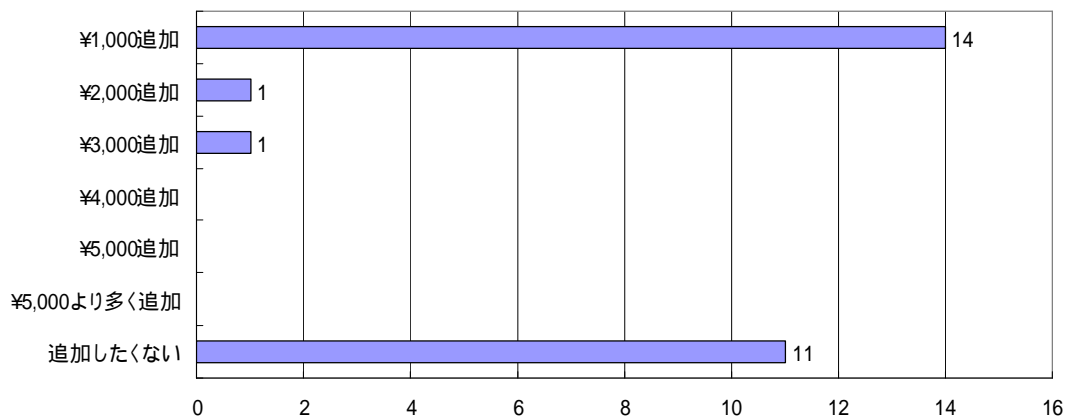
図表 4 - 31 当日スケジュールの感想



) 参加費用について

- 今回の参加費は2,000円であったが、1,000円追加して支払っても良いと回答した人が最も多く、2,000～3,000円を追加しても良いと答えた人も含めると、半数以上が今回の参加費より高く支払っても良いと感じている。
- 一方、「追加したくない」の回答も全体の約4割を占めている。

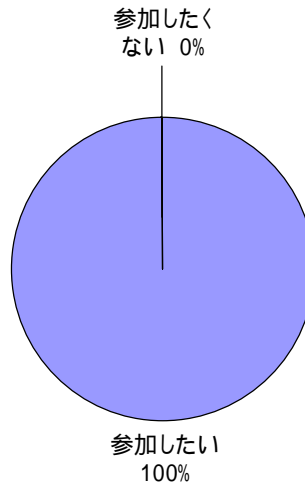
図表 4 - 32 参加費の支払い意思



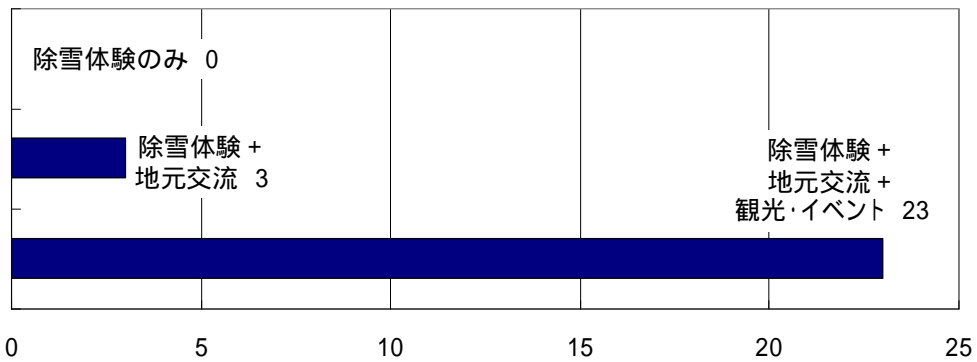
) 宿泊を伴った場合の参加意向について

- 参加者全員が、費用負担が増えたとしても宿泊を伴った除雪体験プログラムに参加したいとの意向を示している。
- 宿泊を伴った場合に希望するプログラムについては、「除雪体験のみ」はなく、地元との交流や観光・イベントと組み合わせたプログラムを希望している。

図表 4 - 33 宿泊を伴った場合の参加意向



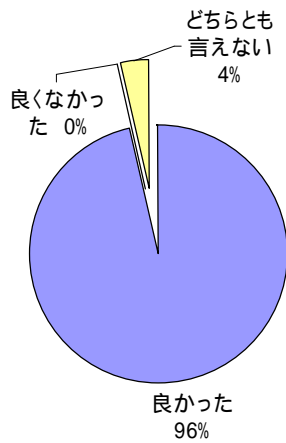
図表 4 - 34 宿泊を伴った場合に希望するプログラム



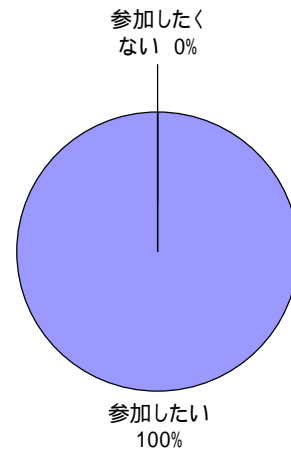
) プログラム全体の満足度と今後の参加意向について

- 全体を通しての満足度については、ほぼ全員が、「良かった」と回答している。
- 全体を通して印象に残ったこととして「地元の方に喜んでもらった」、「お年寄りの役に立てて良かった」等のボランティア除雪と地元の交流に関するコメントが多かった。
- 同じ体験ツアーが再び企画された場合も、全員が「参加したい」との意向を示している。
- 同じ体験ツアーが企画された場合、「人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域」と「自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域」が最も多く、高齢者対策や自然環境保全に高い関心が寄せられている。

図表 4 - 35 全体を通しての満足度



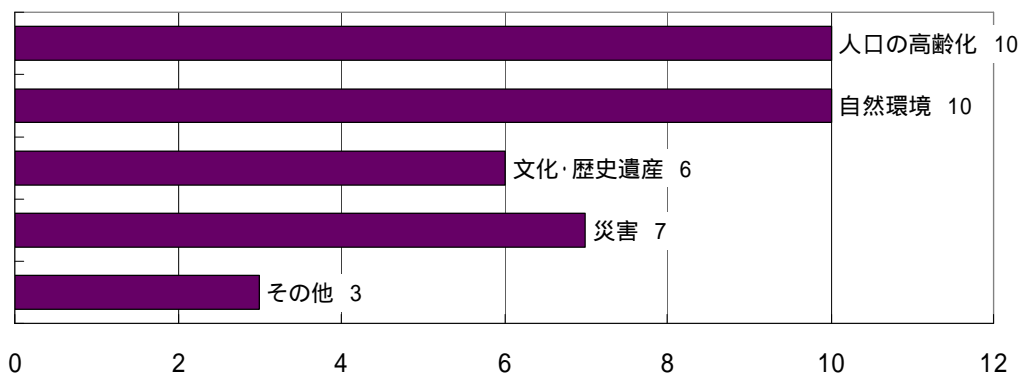
図表 4 - 36 同じ体験ツアーへの参加意向



図表 4 - 37 全体を通して印象に残ったこと

・地元の方に喜んでもらえた
・初めて雪はねがおもしろくなった
・地元の方に喜んでもらえた
・温泉、混浴は最高
・良かったけど、ご飯の時間帯が微妙でした。昼ご飯が食べづらかったです
・ウインターサーカスが素晴らしい
・思ったよりも時間があっという間でした、やはりおばあちゃんの笑顔が素敵でした
・お年寄りの役に立てて良かった
・いい流れだった

図表 4 - 38 同じ体験ツアーが企画された場合に希望する地域



- 人口の高齢化 : 人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域
- 自然環境 : 自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域
- 文化・歴史遺産 : 文化や歴史遺産の破損・倒壊が危ぶまれる地域
- 災害 : 地震、洪水、豪雪、火山噴火等の災害に見舞われた地域

2) 雪かきボランティア 参加者アンケート結果

岩見沢市栗沢町万字地区でのホームビジット型除雪支援実験(雪かきボランティア)は、「雪はね体験隊」とは異なり、観光的な要素を含まず、よりボランティア色を強めたものとしている。プログラム終了時に、参加者に対してアンケート調査を実施し(回答者数9名)、その結果を以下に整理する。なお、調査項目は図表1-23(42~43頁)に示したとおりである。

) 参加者の属性

参加者の属性を整理すると、図表1-50のとおりである。今回の実験では、北海道大学にチラシを掲示して募集したことから、男性1名を除き、参加者は北海道大学の学生であった。出身は道外であるものの、札幌に居住していることから除雪経験のある者が多く、「除雪を経験してみたい」という理由から参加した者はそれほど多くなかったと考えられる。実際、除雪経験のある者6名のうち女性2名を除き、「除雪作業に慣れている」と答えている。また、ボランティア経験をみると、9名中7名が何らかのボランティア活動を経験している。

図表4-39 雪かきボランティア 参加者の属性

調査項目		男性	女性	総数
年齢	10代	0	1	1
	20代	6	1	7
	50代	1	0	1
出身地	道内	1	1	2
	道外	6	1	7
除雪経験	経験なし	3	0	3
	経験あり	4	2	6
除雪への慣れ (除雪経験者のみ)	慣れている	3	0	3
	あまり慣れていない	1	2	3
ボランティア 活動の経験	活動している	2	1	3
	以前していた	3	1	4
	したことがない	2	0	2
除雪ボランティア の経験	近所の除雪	0	0	0
	近所の屋根の雪下ろし	2	0	2
	遠方での除雪	1	1	2
回答者総数		7	2	9

) 除雪作業の疲労度について

- 「思ったより疲れた」と答えた者はいなかった。また、「思ったより楽だった」と答えた3名は、「除雪経験がない」と答えた3名であった。
- 女性の参加や年齢等を勘案すると、あまり疲労度が高くない程度の作業量が望ましく、本実験の作業量は概ね適切であったといえる。

図表 4 - 40 作業の疲労度

性別	疲労度			総計
	ちょうどよい	思ったより楽だった	思ったより疲れた	
男性	4	3	0	7
女性	2	0	0	2
総計	6	3	0	9

) 除雪作業中の危険について

- 4名が作業中に「危険を感じたことがある」と答えており、4名とも屋根からの落雪についてであった。
- 屋根からの落雪の危険があったのは除雪場所 であり、ここでは屋根の雪下ろし作業と家屋周辺の除雪作業が同時になされていたことから、家屋周辺の除雪を担当していた者が落雪の危険を感じたと考えられる。
- したがって、屋根の雪下ろし作業と家屋周辺の除雪作業を組み合わせるような場合、作業の順番やボランティア参加者の配置等を考慮する必要がある。

図表 4 - 41 除雪作業中の危険

性別	安心して作業ができたか		総計
	安心して作業できた	危険を感じた	
男性	3	4	7
女性	2	0	2
総計	5	4	9

) 今後の企画内容について

- 本実験は「日帰り」であったが、「宿泊して除雪ボランティアをするならば参加したいか」という質問に対し、参加者全員が「参加したい」と回答している。
- 具体的にどのようなツアーであれば参加したいかを尋ねた結果、「雪かきのみ」の回答はなく、「地元との交流」もしくは「観光・イベント」との組み合わせで参加したいという回答が多くみられた。また、「その他」の内容は「雪かき+温泉」である。
- 以上より、除雪支援ツアーについては、宿泊の形態であっても参加の意向が高いものの、除雪のみでの参加意向はなく、何らかのイベントを組み合わせる必要があると指摘できる。

図表 4 - 42 参加したい除雪ボランティアツアーの内容

性別	雪かきのみ	雪かき + 地元交流	雪かき + 地元交流 + 観光・イベント	その他	総計
男性	0	2	4	1	7
女性	0	2	0	0	2
総計	0	4	4	1	9

- 「除雪支援に限らず、本ツアーのようなボランティアツアーがあった場合に参加したいか」という質問に対し、参加者全員が「参加したい」と回答している。
- 希望地域としては、「自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域」が3名いるが、「人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域」や「地震、洪水、豪雪、噴火等の災害に見舞われた地域」といった、その居住する人に直接影響を与えるような災害に見舞われている地域への参加意向がやや高くなっている。

図表 4 - 43 参加したいボランティアツアーの内容

性別	人口の 高齢化	自然環境	文化・ 歴史遺産	災害	総計
男性	7	3	0	2	12
女性	2	0	0	2	4
総計	9	3	0	4	16

- 人口の高齢化 : 人口の高齢化が進み、除雪する人がいない地域
 自然環境 : 自然環境の破壊が進んでおり、保全が必要な地域
 文化・歴史遺産 : 文化や歴史遺産の破損・倒壊が危ぶまれる地域
 災害 : 地震、洪水、豪雪、火山噴火等の災害に見舞われた地域

(5) ホームビジット型除雪支援推進の課題と今後の方向性

実証実験の結果をみると、参加者の満足度は非常に高く、その大きな要因として、地元の受入側もボランティアとともに作業をするなど、お互いに時間を共有する中で交流が深まったこと、一人で除雪をするのではなく、まとまった人数で作業し連帯感が生まれたことが挙げられる。除雪ボランティアだけでなく、地元の受入側も含めた「参加者」の交流の密度が、プログラムの満足度を高めているものと考えられる。

ホームビジット型除雪支援(「雪はね体験隊」及び「雪かきボランティア」)を推進するにあたっての課題と方向性を整理すると、以下のとおりである。

1) 雪はね体験隊について

) 除雪作業時のルールと事前準備の徹底

- 除雪作業用のスコップ及びスノーダンプは主催者側で準備したものを参加者に提供したが、作業中は参加者が地元住民の用具も使用し、破損してしまった。

- 今後は地元住民の用具は使用せず、主催者側の用具を必ず使用することを予め徹底する必要がある。
- 同様に、地元住民側にも作業中の用具の貸し出しはしないようお願いすることも必要である。
- 除雪現場の雪質や作業内容に適した用具を主催者側が準備する必要がある。

) 柔軟性のあるプログラムの作成

- 平年より少雪であったため、十分な除雪作業ができるかどうか不明であった。天候によっては作業場所や内容についても実施直前で見直しを余儀なくされる。
- 今回のプログラムは、移動時間が長く、アクティビティも盛りだくさんであったため、参加者の約3割が「することが多く忙しい」という印象をもった。
- 作業中でのトイレ休憩などは当初のスケジュールではあまり考慮されていなかったため、場合によっては、除雪現場でのトイレ確保に奔走しなければならないケースも想定される。

- 当初の予定通りに除雪ができない天候になっても、ツアーそのものをキャンセルするのではなく、代替プログラムを準備する等の工夫が必要である。
- 時間配分にゆとりをもたせ、状況に応じてプログラム変更をスムーズに行う工夫が求められる。

) 宿泊滞在するホームビジット型除雪支援の検討と課題

- アンケート結果から、「宿泊を伴ったツアーでも参加したい」という意向が圧倒的に多く、その場合でも、除雪ボランティアだけでなく、地元の交流や観光・イベントと合わせたプログラムを望む声が大きかった。
- 「雪かきボランティア」の参加についても同様の傾向がみられた。
- 日帰りよりも時間的にも余裕のある宿泊滞在型を実現するためには、除雪支援先での宿泊施設が必要となる。過疎地域に行くほど宿泊先の確保や受入側の体制づくり（宿泊場所や食事等）が課題となる。
- 除雪ボランティア以外のアクティビティについても、過疎地域になるほど、その選択肢が狭くなる可能性がある。

- 過疎地域で多少不便な生活であっても、無理なく楽しめるプログラムを検討する。
- 受入先が準備のために過度の負担を強いられないような工夫が必要である。

) 予算確保

- アンケート結果から、今回の参加費（2,000円）に1,000円追加しても良いと回答した参加者は全体の約半数を占めたが、約4割は「追加したくない」であった。
- 今回の参加費は、入浴料と食費（お弁当を除く）のみであり、その他の経費を補う金額ではなかった。

- 経費を補える予算確保（スポンサーなど）が今後の課題である。

) 継続性のある担い手づくりの仕組み

- 「ホームビジット型除雪支援」は、短期的に成果を上げることが期待できる取組である。しかし一過性のボランティア活動で終わってしまい、必要とする地域にとっては継続性のある「担い手」に結びつかないという懸念もある。
- 「ホームビジット型除雪支援」に参加しても、普段の生活に戻ったときに、その体験を直接活かせる場がなければ、体験そのものが風化する可能性が高い。したがって、参加者を継続性のある「雪処理の担い手」として育成していくため、例えば札幌市福祉除雪事業といった、身近な地域での除雪ボランティア活動が受け皿となって、活動の場を提供するなどの連携的な仕組みづくりが望まれる。

- 各地域での除雪ボランティア活動と連携した仕組みづくりが望まれる。

2) 雪かきボランティアについて

) 参加者の確保

- 本実験の参加者は、除雪経験があり、かつボランティア経験がある者が多く、除雪体験をするというよりもボランティアをするという目的で参加していると考えられる。
- 募集方法にもよるが、概して、ボランティア活動に対する意識が高い者ほどホームビジット型除雪支援ツアーに参加する可能性が高い。
- 今後、参加者を募集するに際して、本実験のようなボランティア意識の高い層をターゲットとするのか、あるいはボランティア意識は高いものの、実際に行動にまで至らない層や、ボランティアに参加する可能性があるにもかかわらず、知識がなくボランティア意識が高まっていない層等をターゲットとするのかを明確にする必要がある。

- 参加者の意識に合わせた効果的・効率的な募集体制が望まれる。

) 除雪作業の内容・手順の確立

- 作業「量」については、本実験は適度であったと考えられる。「思ったよりも楽だった」という回答もあったが、性別や年齢等を考慮し、なるべく多くの参加者を募るならば、本ツアー程度の作業量が適切であると考えられる。
- 作業「内容」については、屋根からの雪下ろしと家屋周辺の除雪を同時に行った場合、家屋周辺の除雪作業をしている者が危険を感じるため、時間差を設けて作業を行うなどの措置が必要である。
- 雪捨て場を間違えると近隣住民から苦情が出る場合があり、留意が必要である。

- 作業手順等を確立するとともに、近隣住民の理解を得るような体制づくりが必要である。
- 具体的には、支援ツアーの対象エリア居住者との綿密な連携を確立することが肝要である。

4 - 3 周辺地域の農業従事者を活かした雪処理支援の仕組みづくり

農業従事者の除雪協力の可能性検討調査 (大潟村)

【秋田部会】

(1) 調査の概要

調査方法 : 郵送配布・郵送回収によるアンケート調査

調査窓口 : 大潟村社会福祉協議会

調査対象者 : 村内の農業従事者 100 世帯

回収数 : 62 世帯 (回収率 62%)

調査項目 : 豪雪発生時の除雪協力の参加意向、除雪協力可能地域、除雪協力時の経費の条件

自身の除雪機材・農業用機材等の保有状況・利活用状況

(2) 調査結果

1) 豪雪発生時の除雪協力

ここでは、今後、「平成 18 年豪雪」のような豪雪が発生し、周辺地域から除雪協力要請があった場合の参加意向、参加条件（対象範囲や経費負担等、ただし日程等の条件は含まない）について聞いている。

) 参加意向

・概ね 8 割の世帯が「条件によっては参加しても良い」と回答している。

図表 4 - 44 除雪協力への参加意向

条件によっては参加しても良い	参加しない	無回答
49	9	4
79.0%	14.5%	6.5%

(N=62)

) 除雪協力可能地域

- ・参加意向のある世帯の除雪協力可能な地域として「村内に限定」、「隣接市町村の範囲まで」の回答が併せて7割以上を占めている。

図表 4 - 45 除雪協力可能対象地域

村内に限定	隣接市町村の範囲まで	片道1時間程度の範囲まで	片道2時間程度の範囲まで	片道3時間程度の範囲まで	県内であればどこでも可能	無回答
13	24	4	4	0	4	0
26.5%	49.0%	8.2%	8.2%	0.0%	8.2%	0.0%

(N =49)

) 除雪協力時の経費の条件

- ・参加意向のある世帯の約6割が「経費負担は不要」と回答している。

図表 4 - 46 除雪協力時の経費の条件

経費負担は不要	交通費は全額負担	交通費は全額負担 + 謝金	無回答
29	13	3	4
59.2%	26.5%	6.1%	8.2%

(N =49)

【謝金の具体的な金額】

- ・面積及び積雪量に応じて
- ・交通費は不要だが、謝金 3,000 円程度
- ・1日 10,000 円位
- ・最低賃金で良い

2) ご自身の除雪機材・農業用機材等の保有状況・利活用状況

) 除雪機の保有状況

- ・約8割の世帯が「除雪機を保有していない」と回答している。

図表 4 - 47 除雪機の保有状況

保有している	保有していない	無回答
10	49	3
16.1%	79.0%	4.8%

(N =62)

図表 4 - 48 除雪機の保有台数

1台	2台
9	1
90.0%	10.0%

(N =10)

) 農業用・建設用機材の除雪への活用状況

- ・概ね半数の世帯が「どちらも活用していない」と回答している。農業用機械を活用している世帯は約 2 割で、建設用機械を活用している世帯は 1 割に満たない。

図表 4 - 49 農業用・建設用機械の除雪への活用状況

農業用機械 を除雪に活 用している	建設用機械 を除雪に活 用している	どちらも活 用している	どちらも活 用していな い	無回答
14	2	3	29	14
22.6%	3.2%	4.8%	46.8%	22.6%

(N =62)

) 農業用・建設用機材の除雪への活用意向

- ・約 4 割の世帯が「農業用機械を活用することができる」としている。一方、「建設用機械を活用することができる」とした回答は 3%とわずかである。

図表 4 - 50 農業用・建設用機械の除雪への活用意向

農業用機械 を除雪に活 用すること ができる	建設用機械 を除雪に活 用すること ができる	どちらも活 用すること ができる	どちらも活 用すること はできない	無回答
22	2	6	16	16
35.5%	3.2%	9.7%	25.8%	25.8%

(N =62)

【農業用・建設用機械を除雪へ活用できない理由】

- ・ 除雪用のブレードがないため。
- ・ 排土板の拡張等整備に金がかかるので今は使用できない。
- ・ 除雪に活用できる装置（ブレードなど）が装備されていない。
- ・ トラクターはあるが冬期、田んぼの小屋に格納している。
- ・ 保管場所がない。
- ・ 田んぼにあるので。
- ・ 除雪機を持たない。

3) 農業従事者による地域除雪活動協力に関する意見

【質問文】

農家の方が冬期において、地域の除雪活動等を部分的に担っていただくことについて、ご意見をお聞かせください。また、自宅で保有されている除雪機材（農業用、建設用含む）を地域の除雪活動等に活用いただくことについて、ご意見をお聞かせください。

【除雪協力への参加意向に関する意見】

太字：前向きな意見 斜め字：消極的な意見 下線：特徴的な意見

出来れば良いと思います。
出来る限り参加活用したい。
あまりできないと思うが出来れば出来るだけ協力したい。
私の家ではできないと思います。
隣接市町村の範囲であれば無償で奉仕することはお互いに助け合いの精神でできると思う。
除雪機材があれば活用は出来るだけやりたい。
機材がスコープとされる雪べらしかないので軽トラックなら協力できます。
昨年のように豪雪の時に農家の方が除雪していただいたことは大変助かりました。
昨年の大雪では、自発的に除雪して下さる方がいて、大変助かりました。部分的に担っていただくことは、ありがたいことだと思います。昨年のような集中的な大雪に対応するためには、必要なことと思います。
出来るだけ活用したいと思う。
トラック等による排雪、労力。
除雪機を持っておりますので活用してほしいと思います。ご協力いたします。
農具機の（トラクターバックホー等）除雪作業利用を活用した地域ボランティア化賛同いたします。組織化と経費の（実費的）捻出計画等会則の立案、賛同者の意識体制にご協力を！
隣接市町村の範囲に於いて除雪活動をボランティアで活動としてやっていきたいと思うことができると思う。

【人的参加に関する意見】 下線：特徴的な意見

人力で可能な範囲まで。
私の家には除雪機はありませんが、ボランティアとしてスコープにて除雪の場合は出てもいいと思っています（それも高齢者の家とか身障者の家とか、その内で除雪できない家に限りますが）。
大潟村は農家においては、 <u>専業農家</u> ですので冬期間の除雪活動は充分可能だと思います。ただし、除雪機材が装備されている場合であり、これのためにわざわざ購入することは不可能と思います。
専門的な技術がないからボランティア支援くらいしかできない。ダンプやスコープ程度ならできる。機械はないけど労力としてなら出来ます。

【自宅周辺等近隣での除雪協力に関する意見】 下線：特徴的な意見

<p>村内の協りに於いては全面的に協力可能であるが、村外にあたっては様々な問題が起きてくる<u>ことが考えられ、協力は不可能と思われる。特に地域においても全面可能である。</u></p>
<p>自然災害は各住区民が中心になる事が第 1 条件と思います。まずはとなり近所から始まると思います。</p>
<p>自宅の周辺及び格納庫（自己の）周辺の除雪協力はなんとかできると思うが、<u>他町村にまではとても出かける程の余裕はありません。</u></p>
<p>昨年、村内で自宅の除雪ができず、困っている人がおりました。家の外に出るのに出れない状態でした。高齢化（病気）などで村内にも困っている方が見られます。村外より、村内の問題を先に解決すべきと思います。</p>

【操作技術等機械に関する意見】 下線：特徴的な意見

<p>私は老人（70 歳以上）ですが、雪国育ちですので屋根の上など高いところの作業は少し不安がありますが、雪についての知識はあると思います。<u>小型のユンボやローダーがあります。私自身は運転にはかかわりたくありませんが、使える人がいれば利用してもらって差し支えありません。</u></p>
<p>農業用ですので除雪機材として利用する気はありません。</p>
<p>凍結路面での移動手段を持たないので自走可能な範囲しか協力できない。</p>
<p>プロのオペレータでなければ無理と思います。</p>
<p>操作技術も身近なところが限界です。</p>
<p>コンバイン改造車のブレード程度しか所有していない。</p>
<p>農業機械利用で車検等の関係で他へは出られない。<u>2t ダンプでしたら参加できる。</u></p>
<p>建設用機材はあるが<u>免許証がない。</u></p>
<p>機械が傷むおそれがありますね。やはり農業用機械ですので無理できませんね。</p>
<p>トラクターにフロントローダー（小）がついてくる位の除雪可能度なので外部にまでは行動できないと思う。</p>

【費用負担に関する意見】 下線：特徴的な意見

<p>遠くなる程、気を遣うことになるので（特に除雪してもらおう方で）<u>交通費程度の負担はやむを得ないと思う。</u></p>
<p>労力だけのときは無料。</p>
<p>機械使用時には燃料代位は必要。</p>
<p>経費負担は気持ち次第で謝金時給等で。</p>
<p><u>機材の使用については幾分かの使用料を考えていくべきではないでしょうか。</u></p>
<p>住宅地はもちろんです。格納庫の除雪は個人でしなければならぬので、有料でもいいですので除雪できる体制を作っていただきたい思います。農作業の受委託のように村で統一した料金体系を作ってもらえれば、お互いに気兼ねなくできると思います。</p>

【アンケート票】

豪雪時の除雪協力に関するアンケート調査

大潟村社会福祉協議会

〔調査の趣旨〕

- ・本調査は国土交通省が実施する「豪雪地帯における安心安全な地域づくりに関する調査」の一環として行なわれているもので、秋田県、大潟村、秋田県社会福祉協議会が協力しております。
- ・「平成 18 年豪雪」において問題となった、地域防災力の低下や雪下ろしの担い手不足等の対策検討のために実施しています。

〔回収方法〕

- ・回収方法は返信用封筒により社会福祉協議会にお送りください。
- ・回収期日は 2 月 28 日（水）となります。

問 1 今後、「平成 18 年豪雪」のような豪雪が発生し、周辺地域から除雪協力要請があった場合の参加意向、参加条件（対象範囲や経費負担等の条件のこと。日程等の条件は含まない）についてお伺いします。

(1) 参加意向 (1 つに)

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 条件によっては参加しても良い | 2. 参加しない |
|-------------------|----------|

(2) 「1. 条件によっては参加しても良い」と回答された方にお伺いします。

対象地域はどの程度の範囲までなら可能ですか。(1 つに)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 村内に限定 | 2. 隣接市町村の範囲まで |
| 3. 片道 1 時間程度の範囲まで | 4. 片道 2 時間程度の範囲まで |
| 5. 片道 3 時間程度の範囲まで | 6. 県内であればどこでも可能 |

(3) 「1. 条件によっては参加しても良い」と回答された方にお伺いします。

経費負担等の条件はどうか。(1 つに)

- | |
|------------------|
| 1. 経費負担は不要 |
| 2. 交通費は全額負担 |
| 3. 交通費は全額負担 + 謝金 |
| (謝金の金額は具体的に) |

(3) 結果の総括と今後の方向性

【調査結果】

大潟村の農業従事者を対象としたアンケート調査によると、8割近くの者は豪雪時の除雪協力に参加可能であると回答している。しかしながら、協力可能な地域は村内か隣接市町村までとする者が7割以上みられることから、広域での除雪協力体制を構築することは難しそうであり、隣接市町村間等の地域内での協力体制ならば可能性は高そうである。また、除雪協力時の経費については、「不要である」と回答する者が約6割、「交通費が必要である」と回答する者が3割弱あるため、無償かあるいは交通費相当を支給することで体制を構築できそうである。

農業用機械・建設用機械を除雪活動に活用できると回答した者は5割弱みられる。これは大潟村固有のことかもしれないが、除雪機械を持った除雪ボランティアの参加可能性が高いことが推察される。

自ら所有する除雪機械を除雪ボランティア活動に活用することについては、免許の有無、機械の損耗への懸念、操作技術、燃料費等がネックとなっているようである。

また、「除雪機械のみを提供することは可能」との意見や、「除雪機械とは関係なく人力でのボランティア協力については参加可能」という意見、「専業農家による冬期の除雪活動は充分可能」との意見がみられることから、除雪機械の使用は別にして、農業従事者による除雪協力の可能性は期待できそうである。

< 要点 >

- ・ 隣接市町村の範囲までなら農業従事者による除雪協力の可能性は高い。
- ・ 農業従事者が保有する農業機械等を除雪活動に転用することについては、5割弱は「活用できる」と回答しているが、実現にあたっては、免許の有無、機械の損耗への懸念、操作技術、燃料費等がネックになっている。

【今後の方向（秋田県全体として）】

既存除雪ボランティア組織による農業従事者への参加の呼びかけの徹底

秋田県の産業構造の大きな特徴として農業従事者の比重が高いことがあげられる。さらには、比較的冬期間に時間のとれる稲作農家が多数みられることもポイントである。アンケート調査からみると、居住地域の周辺であれば除雪協力の参加意向が高いことから、豪雪時の地域除雪の担い手として農業従事者に期待できそうである。

湯沢市ボランティア組織調査によると、農協職員による除雪ボランティア参加はみられるものの、農業従事者が多数参加するケースはみられないようである。そのため、既存の除雪ボランティア組織が農業従事者の参加を呼びかけていくことによって、農業従事者の協力を顕在化させる方向が考えられる。

隣接する市町村単位で農業従事者主体の除雪支援組織を創設

隣接する自治体、農協、社協等が連携しながら、地域内の農業従事者による除雪ボランティア組織を構築する方向も考えられる。

4 - 4 地域外ボランティアとの平時からの関係づくり

湯沢町福祉除雪ボランティア隊交流会の開催 (湯沢町社会福祉協議会)

【新潟部会】

(1) 実施目的

新潟県湯沢町では、平成17年度の豪雪時にボランティアに来ていただいた方を、「湯沢町福祉除雪ボランティア隊員」として登録している。このボランティア隊員のうち、特に町外の方々を対象として、冬期シーズン中に最低1回は湯沢町内の高齢者宅の除雪を行う機会を設け、交流を継続するとともに、ボランティア活動の意欲を高め、仲間を増やしていくための講演会事業を実施する。また、同じ「福祉除雪ボランティア」仲間同士での交流を行い、参加者の絆を深め、地域貢献の輪を広げるものとする。

さらに、雪の降らない大都市圏のボランティアの方が、豪雪地において除雪ボランティアを継続したくなるような「モデルボランティア活動地域」を目指す。

(2) 当日スケジュール

一日目	16:00	湯沢町社会福祉協議会職員集合 (湯沢町公民館)		
	17:00	ボランティア集合 (湯沢町公民館)		
	18:00	参加者集合 81人 開会宣言		
	18:05	講演会 「活動報告と湯沢町の皆さまへ」 十日町市川西 夢雪隊 関口昌生氏 青森市赤坂スノーバスターズ 佐藤好文氏 財団法人日本システム開発研究所 諸橋和行氏		
	19:10	挨拶 湯沢町社会福祉協議会長 樋口昌保氏 湯沢町ボランティア連絡協議会 会長 中谷真利子氏 来賓挨拶 国土交通省都市・地域整備局地方整備課 島多昭典氏		
	19:15	乾杯 湯沢町災害ボランティア協会 会長 駒形虎次郎氏 町外からのボランティアさんにインタビュー		
	20:45	閉会 湯沢町ボランティアセンター 所長 南雲實氏		
	二日目	9:15	参加者集合 31人 (湯沢町ボランティアセンター)	
		9:45	雪かき講習 (かんじき・スコップ・スノーダンプ) 地元指南役 笛田氏 樋口氏	
		11:30	越後雪かき道場初級コース 修了認定証授与 指南役講評 解散	
12:00		旭原福祉工場にて昼食 解散		

(3) 実施内容

湯沢町福祉除雪ボランティア交流会の実施に際しては、前節4-4-3の「越後雪かき道場」と連携を図ることとし、「第5回越後雪かき道場 in 湯沢町」という位置づけで開催した。一日目は、湯沢町内ボランティアと町外ボランティアの交流を目的とした講演会及び懇親会を行い、二日目は主に町外ボランティアを対象として雪かきの実践講習及び雪かき体験を行った。

<一日目（講演会：18:00～19:10、懇親会：19:10～20:45）>

- ・湯沢町公民館を会場とし、当日の参加者は合計81人（内訳：町外17人、町内ボランティア49人、社会福祉協議会15人）であった。
- ・講演会では、十日町市川西にある除雪ボランティア組織「夢雪隊（むせつたい）」の関口昌生氏、青森市で地域コミュニティによる除雪ボランティア活動を展開している「赤坂スノーバスターズ」の佐藤好文氏の両名から、これまでの先進的な活動を紹介していただいた。
- ・講演会の後は同じ会場で立食形式の懇親会を開催した。町内外のボランティアがそれぞれ自由に歓談し、交流を深めた。

写真4-19 会場の準備



写真4-20 受付



写真4-21 講演会場の様子



写真4-22 夢雪隊関口氏の講演



写真 4 - 23 赤坂町会佐藤氏の講演

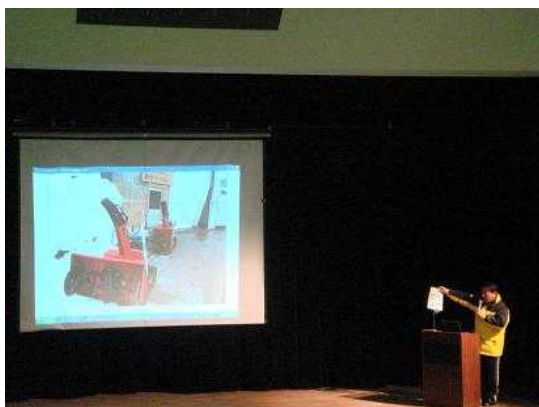


写真 4 - 24 雪かき道指南書の解説

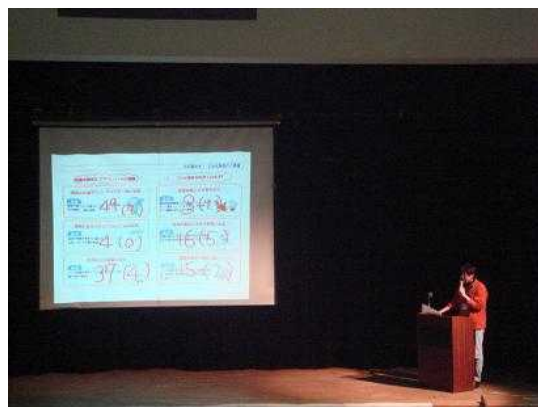


写真 4 - 25 懇親会乾杯の挨拶



写真 4 - 26 町外参加者インタビュー



写真 4 - 27 懇親会の様子



写真 4 - 28 最後の一本締め



<二日目（雪かき体験・実践講習：9:45～11:30）>

・二日目の参加者は31人（内訳：町外21人、町内ボランティア6人、社会福祉協議会4人）であり、越後雪かき道場として、地元の指南役から実践講習を受けた。

写真4-29 いざ出陣



写真4-30 かんじき講習



写真4-31 地上の雪かき講習



写真4-32 ひとやすみ（水分補給）



写真4-33 指南役の講評



写真4-34 記念撮影

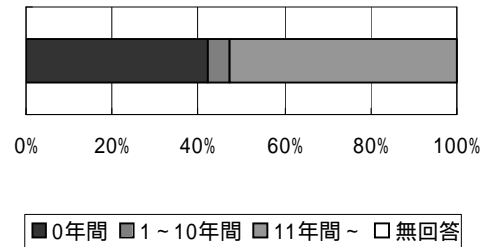


(4) 評価 - アンケート結果 -

回答者自身について

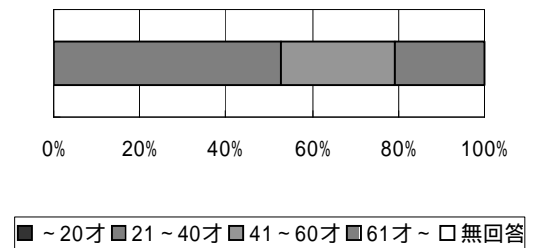
雪国での生活経験

	回答者数 (割合)
0年間	8 (42.1%)
1～10年間	1 (5.3%)
11年間～	10 (52.6%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



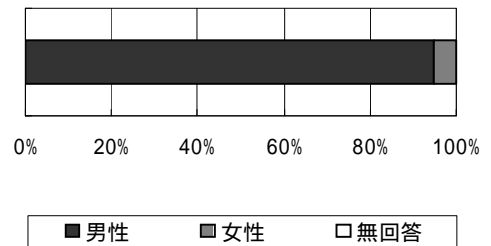
年齢

	回答者数 (割合)
～20才	0 (0.0%)
21～40才	10 (52.6%)
41～60才	5 (26.3%)
61才～	4 (21.1%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



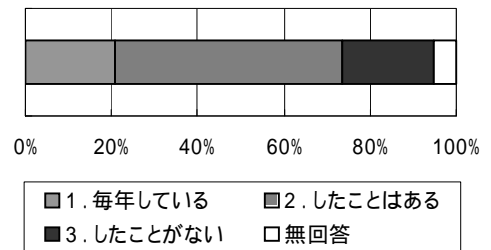
性別

	回答者数 (割合)
男性	18 (94.7%)
女性	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



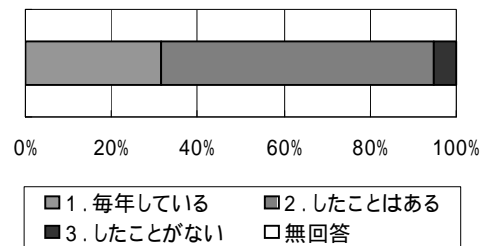
屋根の雪下ろしの経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年している	4 (21.1%)
2. したことはある	10 (52.6%)
3. したことがない	4 (21.1%)
無回答	1 (5.3%)
合計	19 (100.0%)



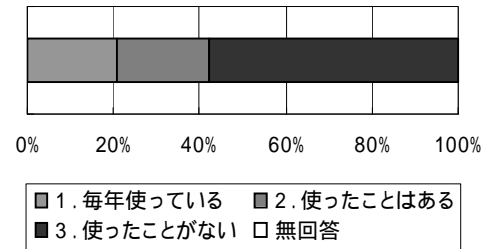
家屋周囲の雪かきの経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年している	6 (31.6%)
2. したことはある	12 (63.2%)
3. したことがない	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



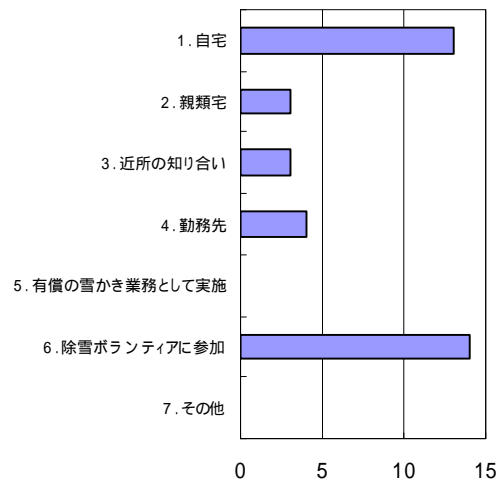
除雪機械の使用経験

	回答者数 (割合)
1. 毎年使っている	4 (21.1%)
2. 使ったことはある	4 (21.1%)
3. 使ったことがない	11 (57.9%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



主な雪かきの対象 (複数回答)

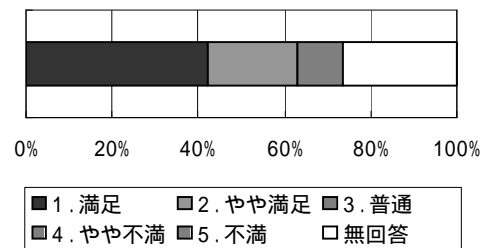
	回答者数 (割合)
1. 自宅	13 (72.2%)
2. 親類宅	3 (16.7%)
3. 近所の知り合い	3 (16.7%)
4. 勤務先	4 (22.2%)
5. 有償の雪かき業務として実施	0 (0.0%)
6. 除雪ボランティアに参加	14 (77.8%)
7. その他	0 (0.0%)
	18 (100.0%)



1日目の講演会について (無回答には1日目の不参加者を含む)

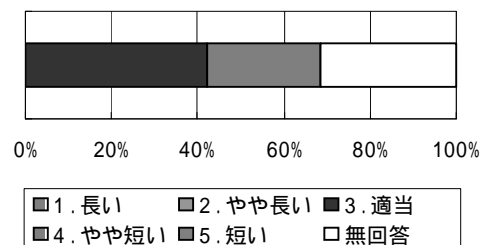
内容

	回答者数 (割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	2 (10.5%)
4. やや不満	0 (0.0%)
5. 不満	0 (0.0%)
無回答	5 (26.3%)
合計	19 (100.0%)



時間

	回答者数 (割合)
1. 長い	0 (0.0%)
2. やや長い	0 (0.0%)
3. 適当	8 (42.1%)
4. やや短い	5 (26.3%)
5. 短い	0 (0.0%)
無回答	6 (31.6%)
合計	19 (100.0%)



感想や提案など

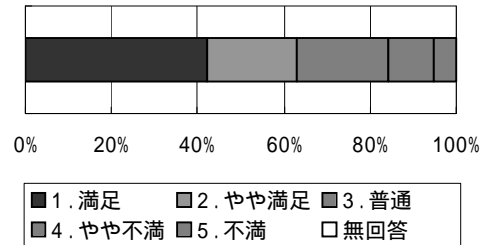
- ・ 大変良かった。一般の人にこの内容を知らせてほしい。
- ・ 除雪のノウハウを教えてもらえてよかった。

- ・今回が初めての参加だったが、少雪だったので、講演会での話が大変参考になった。
- ・もっと詳しく聞きたかった。
- ・貴重な体験であり、先進的な取組を知ることができた。

2日目のボランティア除雪について

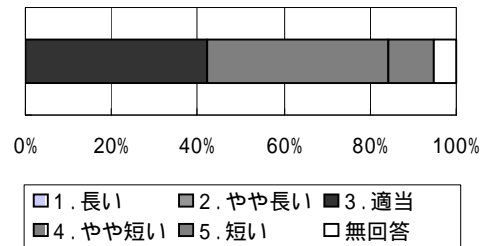
内容

	回答者数 (割合)
1. 満足	8 (42.1%)
2. やや満足	4 (21.1%)
3. 普通	4 (21.1%)
4. やや不満	2 (10.5%)
5. 不満	1 (5.3%)
無回答	0 (0.0%)
合計	19 (100.0%)



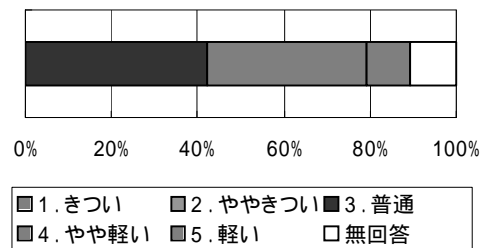
時間

	回答者数 (割合)
1. 長い	0 (0.0%)
2. やや長い	0 (0.0%)
3. 適当	8 (42.1%)
4. やや短い	8 (42.1%)
5. 短い	2 (10.5%)
無回答	1 (5.3%)
合計	19 (100.0%)



体力的負担

	回答者数 (割合)
1. きつい	0 (0.0%)
2. ややきつい	0 (0.0%)
3. 普通	8 (42.1%)
4. やや軽い	7 (36.8%)
5. 軽い	2 (10.5%)
無回答	2 (10.5%)
合計	19 (100.0%)



感想や提案など

- ・もう少し雪があればよかった。
- ・良好。長い間続ける必要がある。もっと他の人にも知らせる必要あり。
- ・講習会は雪がなかったので、時間が短いのは止むを得ない。前日の講演会、交流会は大変良かった。
- ・昨年に比べると作業自体はだいぶ軽めだったが、逆に時間にゆとりがあったため、かんじきや逐一の助言などをいただき、楽しく、気楽に雪かきに取り組むことができた。
- ・かんじきの使い方を教えてもらえてよかった。
- ・少雪なので除雪自体は簡単だった。かんじきなどの体験は非常に面白かった。
- ・建物周囲の除雪編、屋根の雪下ろし編の2つあれば実践的ではないか。